

目次

〈幼児教育〉

幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続

～幼小連携を通して～

宮古島市立 北 幼稚園 教諭 奥平 千里

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	2
III	研究の仮説	2
IV	研究全体構想図	2
V	研究内容	3
1	幼小接続について	3
(1)	幼小接続の重要性	3
(2)	幼小接続の現状	7
(3)	接続期のカリキュラムについて	16
2	幼児と児童の交流活動について	31
(1)	互恵性のある交流活動について	31
3	幼児期の学びのプロセスの可視化について	35
(1)	幼稚園教育において育みたい資質・能力及び10の姿	35
(2)	ドキュメンテーションについて	41
VI	成果と課題	44
	【参考文献・引用文献】等	45

<幼児教育>

幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続 —幼小連携を通して—

宮古島市立北幼稚園 教諭 奥平千里

I テーマ設定の理由

学校教育法では、「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培う」とあり、これは、幼児期の特性を踏まえた幼稚園教育をしっかりと行うことが、義務教育の基礎を培うことにつながることを意味している。

新幼稚園教育要領に新たに設けられた前文においても「これからの幼稚園には、学校教育の始まりとして、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の幼児が、将来自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。このために必要な教育のあり方を具体化するのが、各幼稚園において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である」と明示されている。

新幼稚園教育要領第3節5 小学校教育との接続にあたっての留意事項では『(1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにする。(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校生活が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。』と示され、接続が一層進むよう記載内容の充実が図られている。

これまで、島内のほとんどの公立幼稚園が小学校に併設されていること、小学校長が園長を兼務しているよさを生かし、幼小連携に取り組んできた。しかし、幼小連携として行ってきた活動は、単なる交流活動で、園児は小学生に遊んでもらう、やってもらおうという受動的な立場での参加が多かった。一方、教師もお互いのねらいを確認し、双方向の学びのある交流活動として実施するには至らなかった。また、同じ敷地内に小学校があるという環境にありながら、小学校入学直後の子ども達がどのように学校生活を送っているのか、どんなことで戸惑っているのかということを実際に見に行くことができなかった。

アプローチ期のカリキュラムの作成においては、前述したように入学直後の子ども達の実態を把握しないまま作成してきた。また、小学校のスタートカリキュラムとどのように接続しているかという視点もあいまいであるため、幼小連携のもと作成していく必要

性を感じている。

そのためには、幼稚園の接続期における子どもの発達や学びについて、新幼稚園教育要領で示された「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を手がかりに、小学校教諭と共通理解を図ることが重要であると考え。

そこで、子ども同士や職員間の交流をさらに充実させ、発達の連続性が見える接続期のカリキュラムを作成したり、幼児の学びのプロセスを可視化して小学校に伝えたりすることで、教育内容の相互理解が深まり、幼稚園教育と小学校教育の接続が円滑になるのではないかと考え、本テーマを設定した。

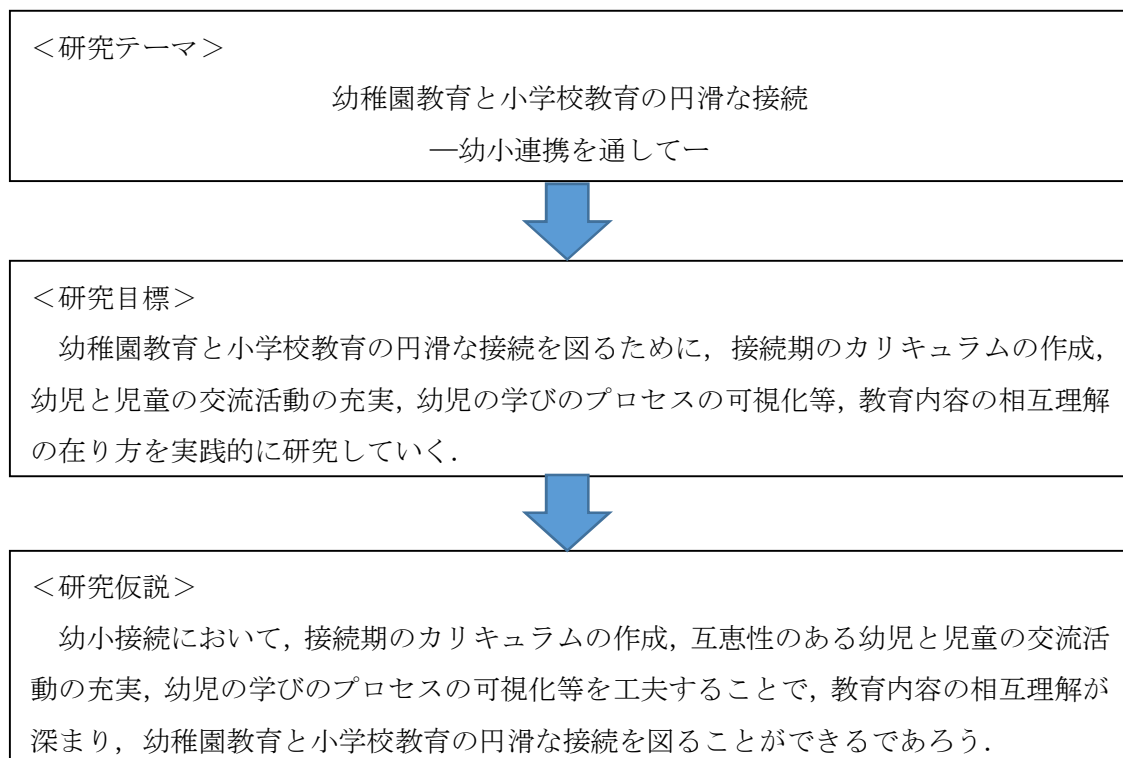
II 研究の目標

幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図るために、接続期のカリキュラムの作成、幼児と児童の交流活動の充実、幼児の学びのプロセスの可視化等、教育内容の相互理解の在り方を実践的に研究していく。

III 研究の仮説

幼小接続において、接続期のカリキュラムの作成、互惠性のある幼児と児童の交流活動の充実、幼児の学びのプロセスの可視化等を工夫することで、教育内容の相互理解が深まり、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図ることができるであろう。

IV 研究の全体構想図





<研究内容>

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1. 幼小接続について | 2. 幼児と児童の交流活動について |
| 1) 幼小接続の重要性 | 1) 互恵性のある交流活動 |
| 2) 幼小接続の現状 | |
| 3) 接続期のカリキュラム | |
| 3. 幼児期の学びのプロセスの可視化について | |
| 1) 幼稚園教育において育みたい資質能力及び 10 の姿 | |
| 2) ドキュメンテーションについて | |

V 研究内容

1. 幼小接続について

1) 幼小接続の重要性

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。そのため、幼稚園では、幼児期にふさわしい生活を展開する中で、幼児の遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などをはぐくみ、人間として、社会と関わる人として生きていくための基礎を培うことが大切である。

これは幼児期の特性を踏まえた教育をしっかりと行うことが、義務教育及びその後の教育の基礎、つまり生涯にわたる教育の基礎を培うものであることを意味している。

そのため幼児期の教育と児童期の教育は、それぞれの段階における役割と責任を果たすとともに、子どもの発達や学びの連続性を保障するために、両者が円滑に接続し、教育の連続性、一貫性を確保し、子どもに対して体系的な教育が組織的に行われることが極めて重要である。

その重要性に鑑み、平成 19 年の学校教育法改正において、幼稚園教育の目的として、「義務教育及びその後の教育の基礎を培う」ことが明記されるとともに、平成 21 年度から全面実施された幼稚園教育要領、保育所保育指針や平成 23 年度から全面実施された小学校学習指導要領において、幼小接続に関して相互に留意する旨が規定された。

① 幼稚園教育要領における接続の記載

第1章 総則 第3 教育課程の役割と編成等

5 小学校との接続に当たっての留意事項

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われ、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

第6 幼稚園運営上の留意点

3 学校間の交流や障害のある幼児との活動を共にする機会

(中段) …特に、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにするものとする。

② 小学校学習指導要領における接続に関する記載

前文 …幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

第1章 総則 第2 教育課程の編成

4 学校段階等間の接続

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

第2章 各教科 第5節 生活

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1(4) ……幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

* 国語, 算数, 音楽, 図画工作, 体育, 特別活動においても同様の記載。

幼児期の教育課程の基準である幼稚園教育要領、保育所保育指針と、児童期の教育課程の基準である小学校学習指導要領には、教育課程の構成原理や指導方法等において、様々な違いが見られる。

教育課程の構成原理における顕著な違いとしては、幼児期の教育には、各教科、特別活動等（各教科等、以下同じ。）といった区別がないことのほかに、方向目標と到達目標の違いが挙げられる。すなわち、幼児期の教育が「～を味わう」「～を感じる」などのように、いわばその後の教育の方向付けを重視するのに対し、児童期の教育は、「～ができるようにする」といった具体的な目標への到達を重視するという違いである。また、こうしたことは、幼児期の教育が幼児の生活や経験を重視する経験カリキュラムに基づき展開されるのに対し、児童期の教育が学問体系の獲得を重視する教科カリキュラムを中心に展開されるといった違いにも現れている。これらの違いは、発達の段階に配慮した違いである。

また、教育課程の構成原理におけるこうした違いは、内容、時間の設定や指導方法等にも顕著な違いをもたらすことになる。幼児期の教育は環境を通して行うこと、つまり幼児を取り巻く人的（教職員自身も含む）・物的要素全てを通して幼児を導くことで、幼児の生活や経験からの学び、自発的意志による学びを重視している。これにふさわしい指導方法が遊びを通した総合的な指導である。幼児期における遊びとは、余暇活動ではなく、学びそのものであり、幼児が遊び込む環境（学びに深さと広がりをもたらす環境）をいかに構築するかが教職員の指導における重要な課題となる。遊び込む環境と教職員の適切な援助があれば遊びは深まり、遊びの中で幼児は自分の課題を発見・追求するようになり、子どものもつ課題意識は高まっていく。一方、児童期の教育においては、教科カリキュラム等の実施のため、各教科等から構成される時間割に基づく学級単位の集団指導が原則となる。ここでは、教員が教育すべき内容を具体化し効果的な指導を行うことにより、児童が目標に到達することができるようにすることが重要な課題となる。これらの違いも、発達の段階に配慮した違いといえることができる。

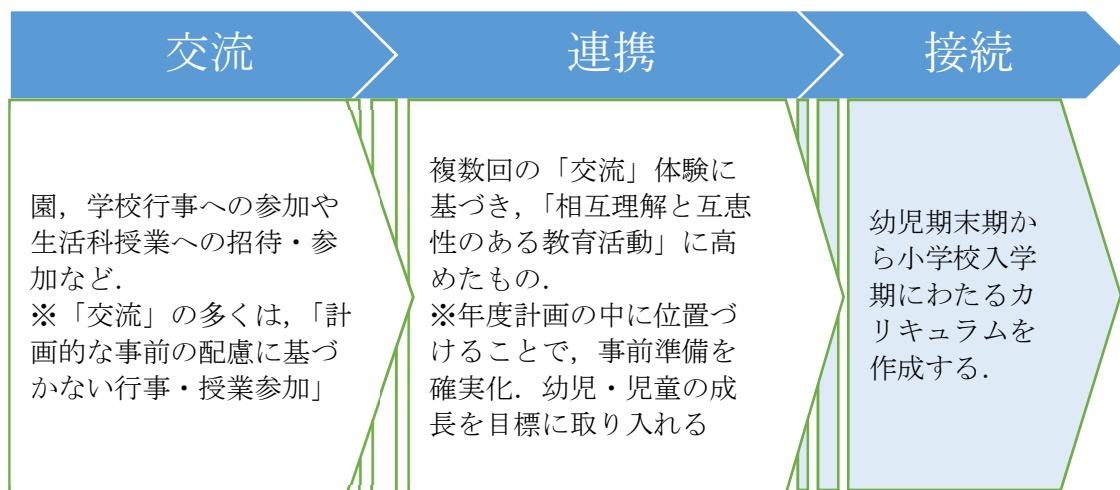
③ 教育課程の構成原理の違い

幼稚園	小学校	
	低学年	中・高学年
健康 人間関係 環境 言葉 表現	国語	国語
	算数	算数
	生活	理科
		社会
	音楽	音楽
	図画工作	図画工作
	体育	体育
	道徳	道徳
		家庭
		外国語活動
特別活動	特別活動・総合的な学習の時間 等	

④ 幼稚園教育・小学校教育の違い

<教育の特徴>	幼稚園	小学校
教育のねらい・目標	方向目標 (「～を味わう」「感じる」等の方向付けを重視) 幼児の活動に沿って保育者がねらいを設定し、環境を構成し、援助を重ねてねらいに近づける	到達目標 (「～できるようにする」といった目標への到達度を重視) 決められたねらいを教科書を使い、教師の誘導によって活動が展開される。
学習・指導	「遊び」を中心とした総合的な学習	「教科」の特性を中心とした分野・領域ごと
時間	一日を自由に過ごす	単位時間(45分間)で区切る
教材	「環境」 「ひと」「もの」「こと」	「教科書」
教育課程	経験カリキュラム (一人一人の生活や経験を重視) 子どもの遊びや生活をスタートに、教師から見ても価値ある学びを目指す。	教科カリキュラム (学習の体系を重視) 価値ある内容からスタートし、それを教師の指導によって子どもたちにも価値あるものとする。
教育の方法等	個人、友達、小集団 「遊び」を通じた総合的な指導。 教師が環境を通じて幼児の活動を方向づける。 時間と空間が弾力的	学級・学年 教科等の目標・内容に沿って選択された教育が展開。 時間と空間が固定的
評価	個人内評価	到達度評価

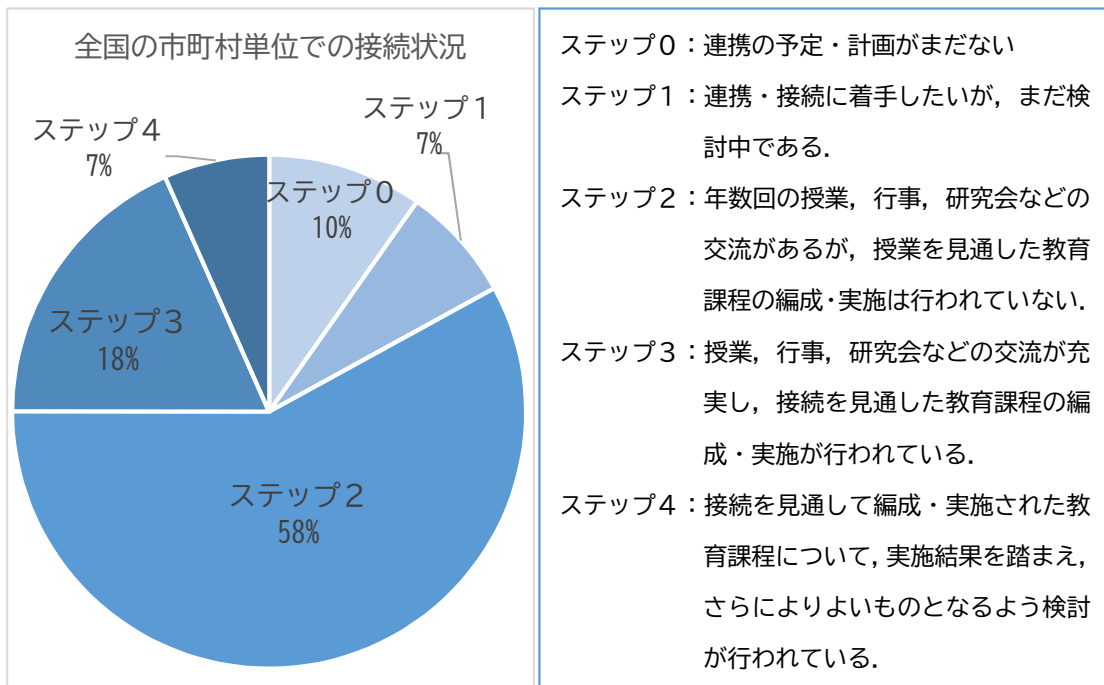
⑤ 幼小連携における用語の整理（上越教育大 木村吉彦）



2) 幼小接続の現状

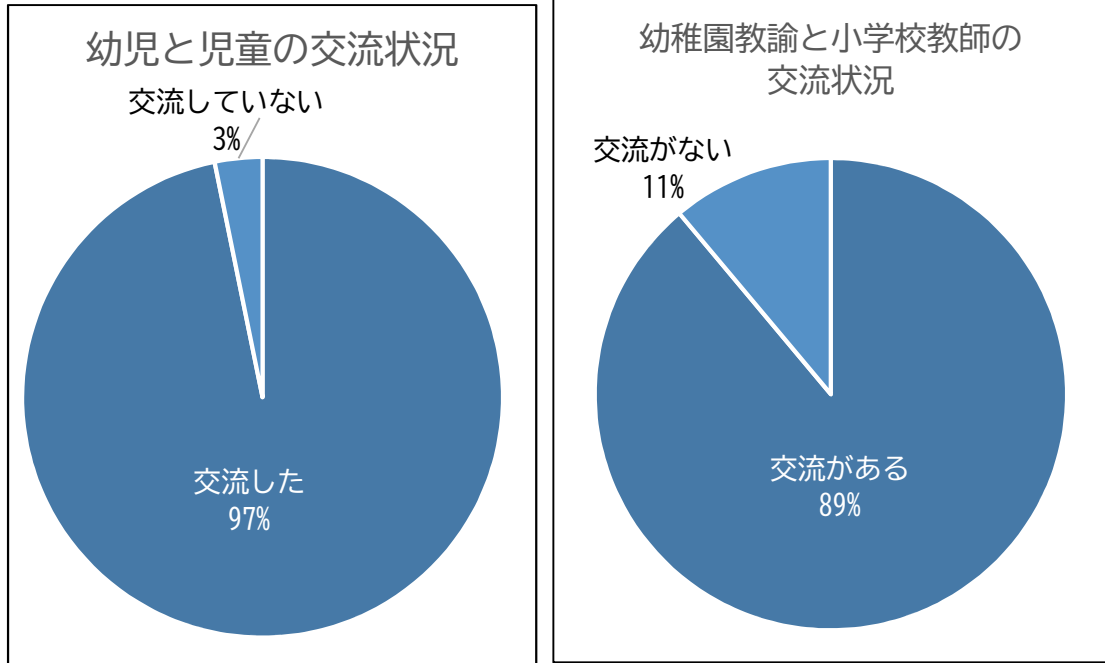
① 全国の状況

市町村における幼小接続の状況（平成 28 年度幼児教育実態調査より作成）：文科省



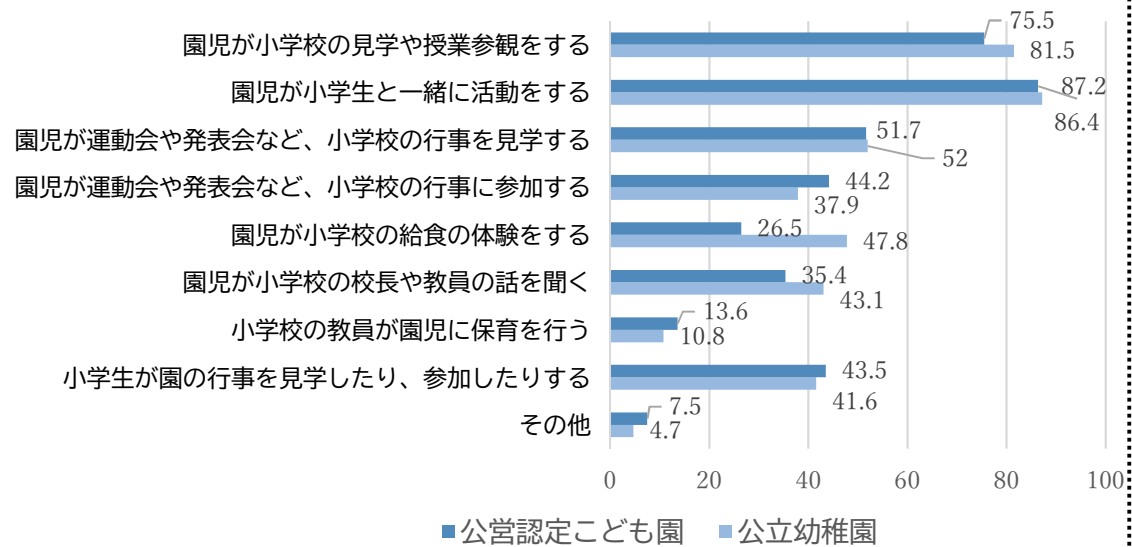
幼稚園における小学校との連携状況（公立のみ）

【平成 28 年度幼児教育実態調査（平成 27 年度実績）より作成】

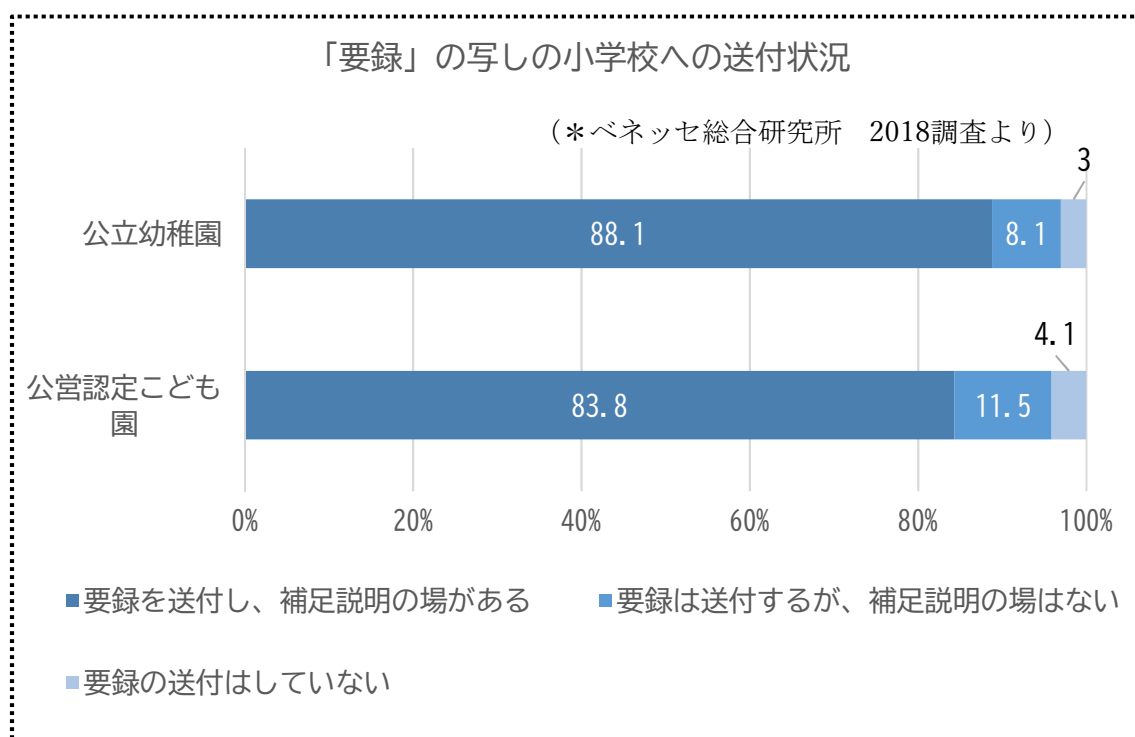
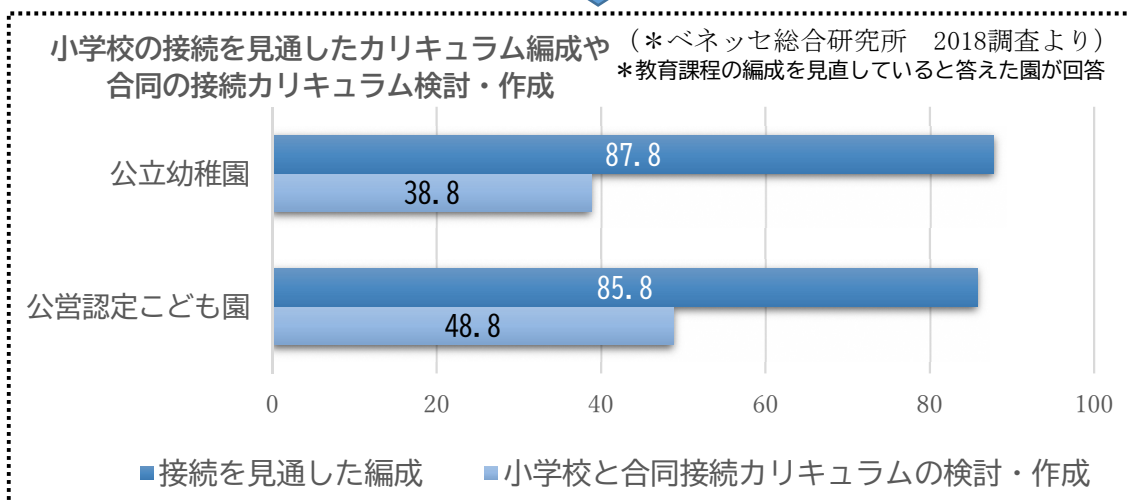
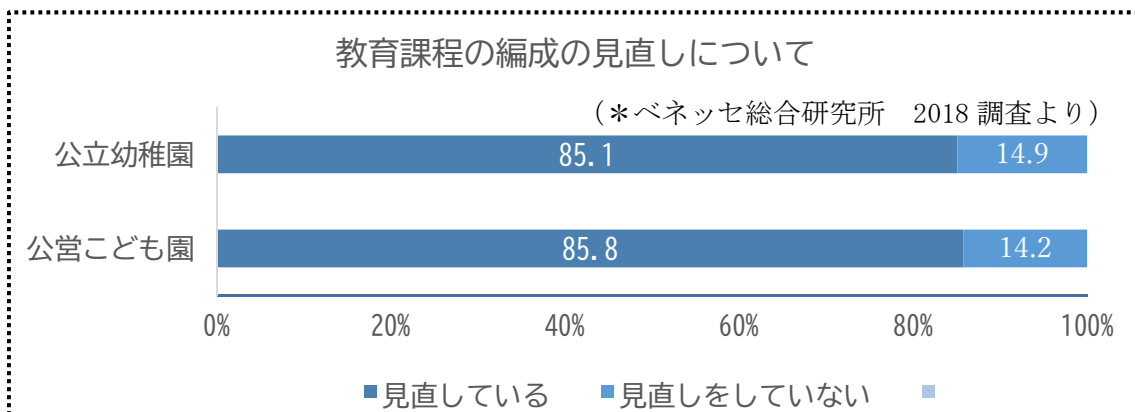


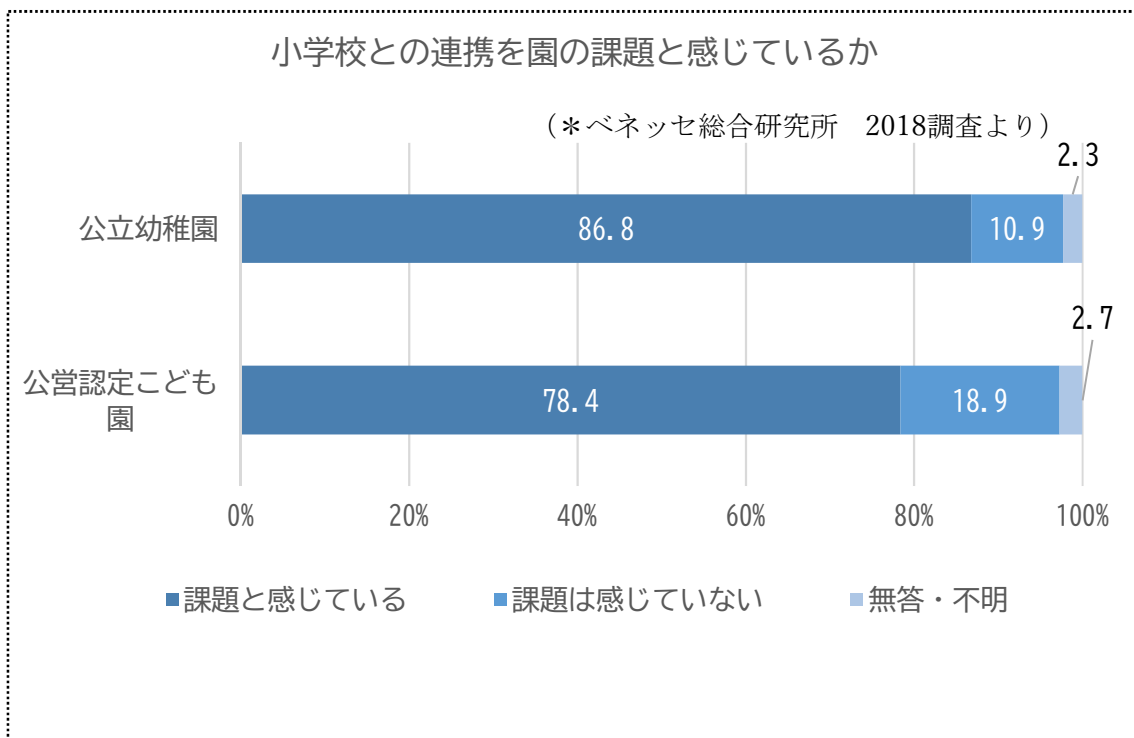
（*ベネッセ総合研究所 2018 調査より）

小学校との交流活動の内容（複数回答可）



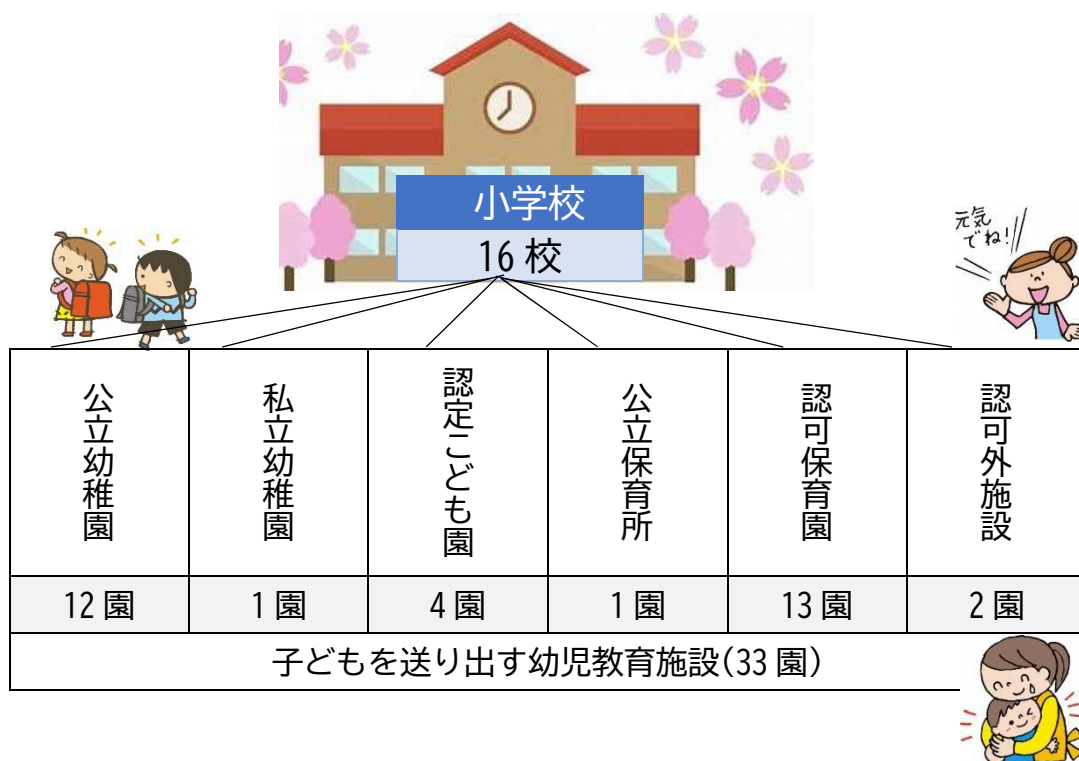
*小学校と交流をしている園が回答





② 宮古島市の状況

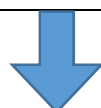
本市では、33の幼児教育施設から16の小学校へ入学する。一つの小学校に17園から入学してくることもあり、幼小接続の円滑化に向けた取り組みが必要である。



宮古島市内小学校1年担任及び幼稚園こども園教諭に対し、調査を行った。

幼児教育に係るアンケート（4月）

質問	<p><5歳児保育をしている幼児教育施設> 子ども達がこれからの社会の中で生きていくために、幼児期にどんな力が身についているといいと思うか。</p> <p><小学校> 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿のうち特に重要と思われるものはどれか。</p>
----	---



（回答結果を10の姿で整理）

回答 (幼児教育施設)	1	自立心	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えて行動する・粘り強く取り組む ・意欲的に挑戦する
	2	言葉による 伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを自分の言葉で伝える ・コミュニケーションがとれる ・相手の話を聞いて理解する
	3	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立
	4	道徳性・規範意識 の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりがある ・善悪の判断ができ、行動できる。
	5	協同性	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの良さを認め合って、協力する

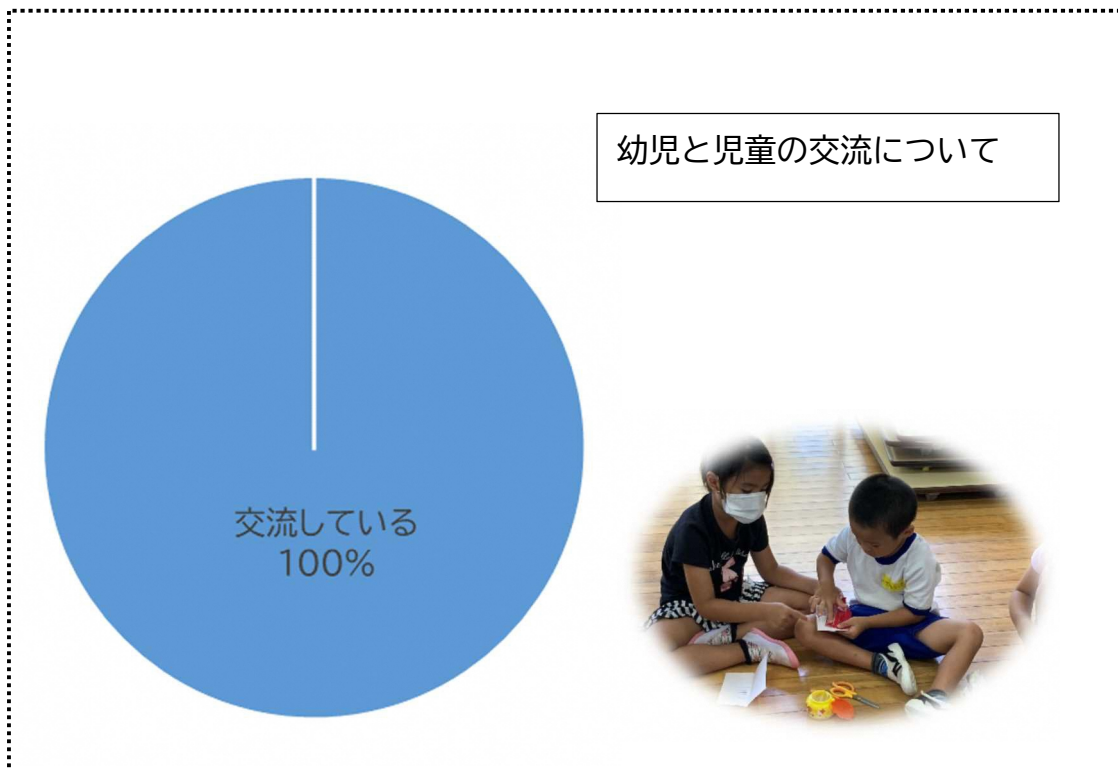
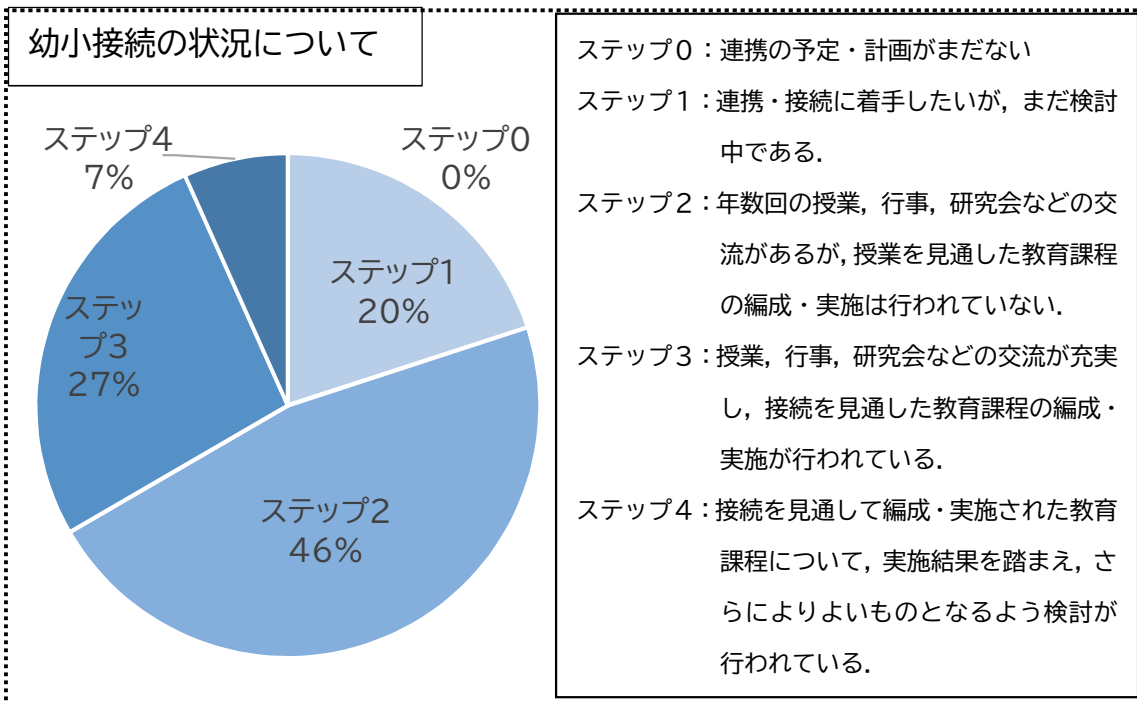
回答 (小学校)	1	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が身についている ・見通しを持って健康で安全な生活をしている等
	2	言葉による 伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意思や気持ちを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりしている等
	3	自立心	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でやる ・あきらめずにやりと遂げようとしている等
	4	道徳性・規範意識 の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断がついている、折り合いをつけながらきまりを守ろうとしている等
	5	協同性	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの良さを認め合って、協力している等

<考察>

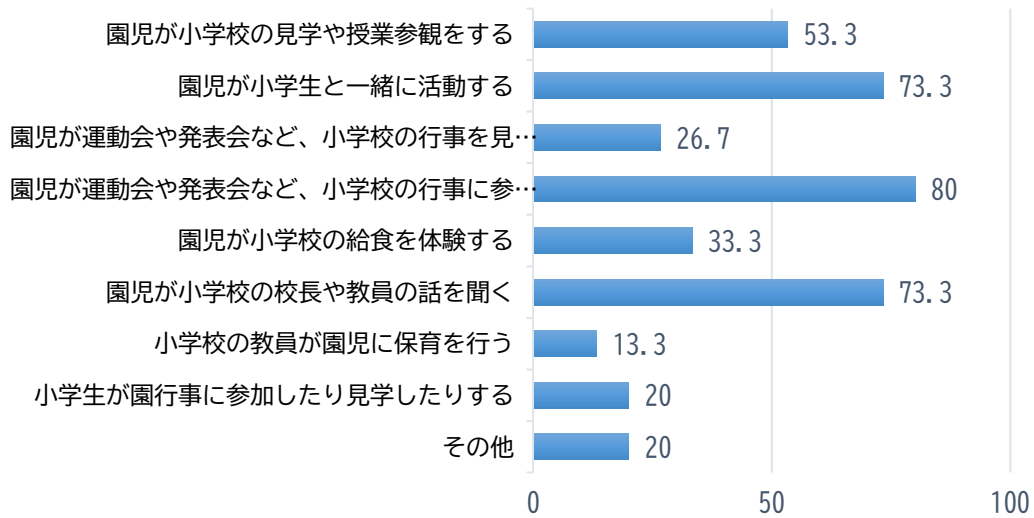
順位は異なるが上位5つが共通しており、本市の保育者、小学校教諭の目指す子ども像は同じ方向性であると考えられる。

幼小連携についての状況調査(3月)

〈宮古島市公立幼稚園・認定こども園(15園回答/15園中)〉

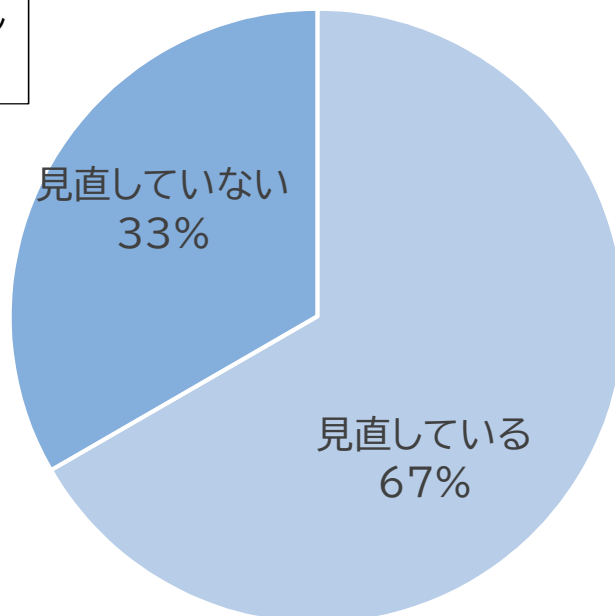


小学校との交流活動内容について（複数回答可）

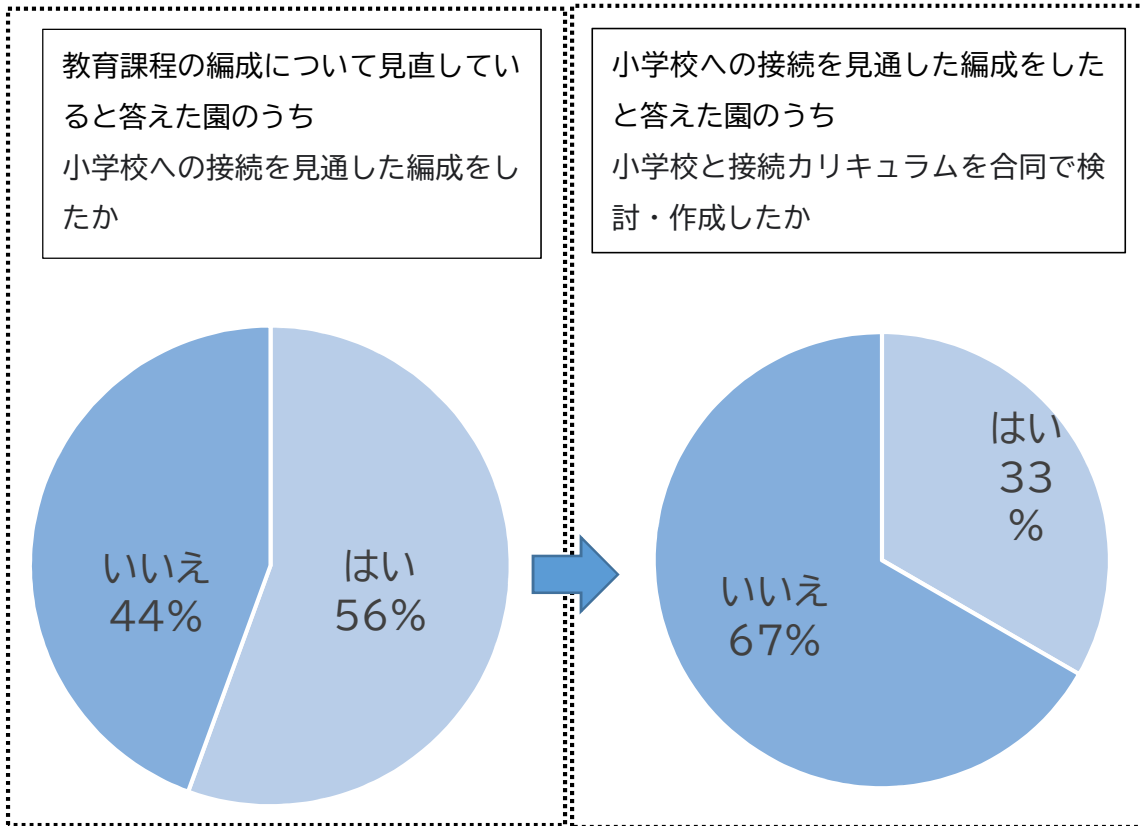


教育課程の編成について(3月)

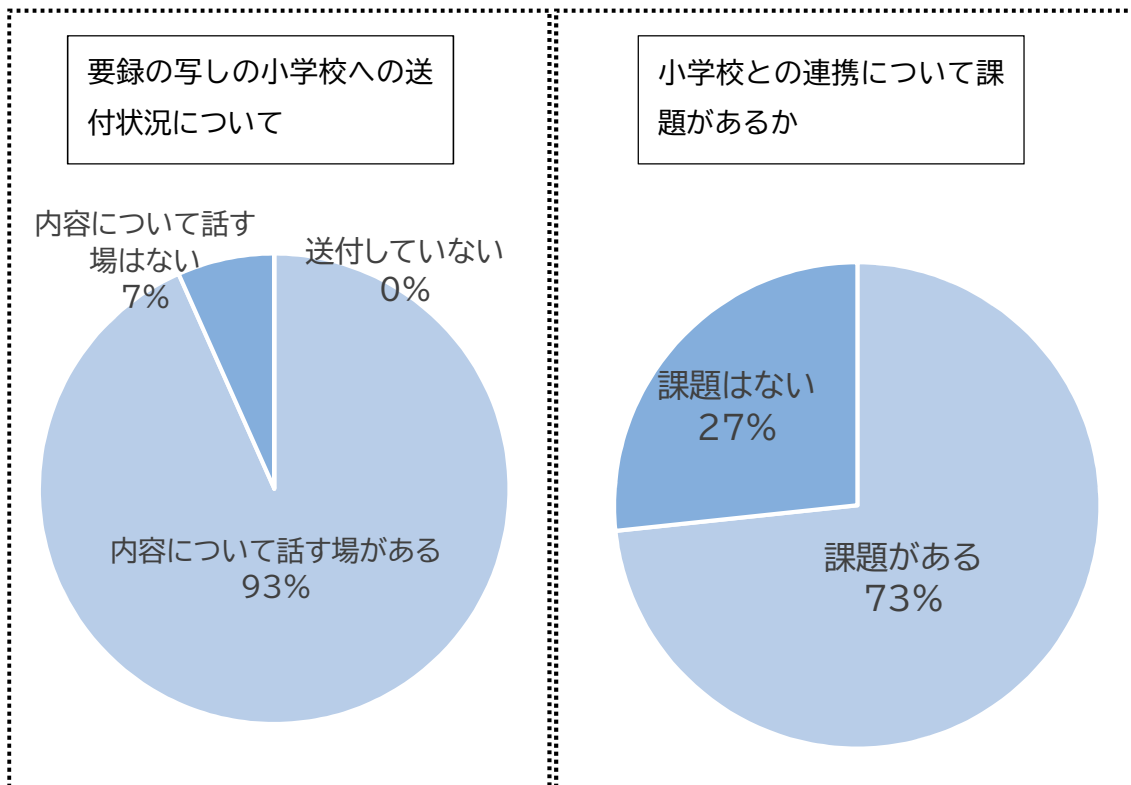
教育課程の編成の見直し
をしましたか



教育課程の編成について



小学校への引き継ぎについて(3月)



幼小接続における課題（アンケートより）



その他

●園児・児童間の交流は数回行えているが、職員間の交流を持つことが難しい。
●連携の意義を明確にするとともに、子どもの遊びを通じた学びについて、小学校に発信していく必要がある。
●園での遊び・育ちが、どういう学びに繋がっていくのかということ、発信していけるように努め、小学校教諭とも10の姿を通して共通理解を深めスムーズな接続ができるようにしたい。
●もっと深い関わりが必要
●交流会で文字を書かせたりすることは、子どもの負担になると思うので、配慮してほしい。
●職員間の話し合いの時間の確保が難しい
●小学校の先生方にうまく幼稚園での教育を説明できない。また、話し合いの場を持ちたいが、小学校の先生方が忙しそうなので声をかけづらい。
●積極的に交流の場を増やしたいが、小学校の負担になるのでは…と遠慮してしまう。管理職が幼児教育に理解を示して、幼児教育と小学校教育をつないで欲しい。

<考察>

アンケートの結果から、幼小接続の状況は全国に比べて進んでいることがわかる。しかし、園によって差があることは課題である。幼児と児童の交流は 100 パーセント行われており、ほとんどの園が小学校と併設しているので、交流が行いやすい状況にあると思われる。交流活動の内容においては「小学校の行事への参加」が全国に比べて高くなっており、公立幼稚園の園長が校長を兼務していることも影響していると思われる。しかし、「小学校の教員が園児に保育をする」や「小学生が園の行事を見学したり参加したりする」という交流活動は全国に比べて低い。このことは、幼稚園側が課題としてあげている「小学校が忙しそうなので小学校へ話し合いの場をもちかけることを遠慮してしまう」「教師間の交流や話し合う時間の確保が難しい」ということにもつながっているのではないかと考える。その他、「幼児教育でみられる学びが小学校にどうつながるのかを小学校へ説明できていない」ということを課題に挙げている園も多くあった。また、教育課程の編成においても、半数以上は見直してはいるものの、小学校と合同で接続カリキュラムの検討・作成している園は全体の 13 パーセントでいずれも全国に比べて低くなっている。

これらのことから、幼小接続の課題を解決するには、定期的な連絡会等を年間計画に位置づけ、お互いの教育について関心を持ち、理解していく必要がある。幼児教育施設も、もっと積極的に幼児教育や接続上の課題について伝えることがとても重要である。そうすることで、接続期のカリキュラムが充実し、円滑な接続を図ることができると考える。

3) 接続期のカリキュラムについて（指導計画の改善）

① 教育課程の編成

幼児期から児童期への子どもの発達や学びはつながっているため、幼児期と児童期における教育課程の構成原理やそれに伴う指導方法等には、発達の段階に配慮した違いは存在するものの、こうした違いの理解・実践は、あくまで両者の教育の目的・目標が連続性・一貫性をもって構成されているとの前提に立って行われなければならない。

幼児期の終わりには、自覚的な学びへの芽生えが育ってきており、このため、教科指導こそ行わないものの、気のあった仲間同士の活動だけでなくクラスにおける共通の目標を意識したり、自分の役割を理解したりして、集団の一員としての自覚を育てる活動を重視したり、今まで遊びを通して学んできた知・徳・体の芽生えを総合化し、小学校に向けて学びを高めていくための教育課程の編成・実施が必要となる。

また、児童期の初期においては、学校の時間感覚や集団行動のきまりを理解・遵守させる指導を段階的に取り入れつつ、児童が自分の興味・関心に基づいた活動に夢中になって取り組む中で、課題を発見したり、調べたりするなどによって学習を深めて

いくことができるような教育課程の編成・実施が必要となる。

今回、小学校の学習指導要領の改訂の中で、1年生の最初にスタートカリキュラムの実施が義務づけられ、幼児教育を引き継ぎながら小学校教育を始めていくということが明確になった。この小学校との接続のために、幼児教育施設に求められていることは、以下の2点である。

- 1, 「資質・能力」を押さえながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を目指す方向で幼児教育を行うこと。
- 2, 小学校へ子どもの育ちを伝える際に、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」(10の姿)の内容を示しながら伝えること。

以上のことを踏まえ、接続期のカリキュラムを見直す必要があると考えた。

これまでの長期指導計画を活用しやすい形に改善し、短期の指導計画も長期指導計画を基に、5領域を踏まえた遊びを通しての総合的な指導ができるような内容で作成・実践していくことで、資質・能力が育まれると考える。

② 年間指導計画の作成

作成にあたり、幼稚園での一日の生活の流れを「あそび」「みんな」「せいかつ」の3つに分類した。(※上越教育大学附属幼稚園「遊び込む子どもを支えるカリキュラムの研究」参考)

幼稚園での一日の流れ

時 間	月・火・木・金	水
登園 8:00～8:15 10:00頃 片付け	所持品の片付けをしたら「好きなあそび」 ～意図的な環境の中で主体的な遊び～ (固定遊具, 砂遊び, ごっこ遊び, 虫取り, 製作等, 屋内・屋外好きな場所で好きな遊びを楽しみながら過ごす) あそびの時間	
10:30頃	ミルク給食	クラスタイム
11:00頃	クラスタイム みんなの時間	みんなの時間
11:30頃	帰りの会 みんなの時間	お弁当
12:00 降園		帰りの会 みんなの時間
※水曜は 13:00 降園		

指導計画における用語の整理

あそび	「あそびの時間」の中での自由な活動のこと。 (砂場遊び, ごっこ遊び, 製作あそび, 虫捕り, 固定遊具など)
みんな	幼児の育ちや対象との関係性から必要と思われる多様な体験を積み重ねるために, 個々の幼児の姿を踏まえてより「あそび」が豊かになることを期待して, 教師が活動を決め, クラス全員に提案して「みんな」の時間に行う活動のこと。(散歩, ルールのある遊び, 季節の製作, プールや交流活動など) ※幼児の興味や実態, 「あそび」とのつながりを考慮し, 幼児が 主体的 に取り組めるよう配慮する。
せいかつ	教師が幼児に, 自分自身にかかわる生活習慣やクラスや園内における様々な役割を身につけてほしいと期待して, 意図的に促す行動や活動のこと。 (食事の仕方やマナー, 片付け, クラスの当番活動, 動植物の世話など)

①この時期の幼児は	各期における幼児の発達の過程や特徴。 各期に見られる幼児の姿。
②こんな風に育ってほしい	園生活の中で教師が期待する幼児の姿。 ・幼児にとって必要だと思われる体験を園生活において積み重ねていくことで現れてくる姿, 各期における方向目標。
③だから教師は	①に示した幼児の姿と照らし合わせた, 各期における主な教師の援助や環境構成。

	幼児は	教師は
あそび	幼児の予想される遊びの姿や期待される学びの姿。	「あそび」における教師の援助や環境構成。 ・内容や方策, 扱う材料, 留意点など, 幼児の遊びを支えるために必要な事項を具体的に示す。
みんな	「みんな」の時間における活動内容。 ・主に, 季節感を味わったり, 集団で行う遊びを楽しんだりする活動。	「みんな」の時間に行う活動における, 教師の配慮すべきことや準備品などの具体的な援助。
せいかつ	教師が幼児に身につけて欲しいと期待する生活習慣や行動。	教師が幼児に身につけてほしいと期待する生活習慣や行動を, どのように促したり環境を整えたりするか, 具体的な援助の内容。

幼稚園 年間指導計画 I 期（4月～5月中旬）

この時期における幼児の発達	<p>発達の過程</p> <ul style="list-style-type: none"> 園生活に親しみ安定していく時期 <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい園に期待感をもって登園する幼児もいるが、新しい環境に対し、不安で泣いたりぐずったりする幼児もいる。 日が経つにつれ、ほとんどの幼児は環境になじみ、気に入った遊具や場所を見つけて自分から遊ぶ姿が見られるが、不安で保育者の側を離れられない幼児もいる。 同じ場においても、それぞれの気持ちで遊んでいる。
こんなふうに育ててほしいな 期待する幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや環境に少しずつ慣れ、安心して自分の好きな遊びをみつけて遊ぶ。 (あ) 保育園での経験を活かしたり、新しい友だちの遊びに刺激を受けたりしながら、新しいことを試してみようとする。 (あ) 友だちと関わりながら、一緒に遊びをつくりだそうとする。 (あ) 園生活の仕方や園生活には必要な決まりがあることを知り、自分から守ろうとする。 (み) 季節ごとの自然の変化や豊かさを感じたり、身近な動植物に興味や関心を持って関わろうとしたりする。 (み) 園生活や簡単な当番活動に、進んで取り組もうとする。 (せ)
だから教師は 援助・環境構成	<ul style="list-style-type: none"> のびのびと安定した気持ちで生活ができるように活動の流れに沿って時間や場を設定し、ゆとりが持てるようにする。 興味を持って、自分から動きだしたくなるような、保育所や家庭でなじみのある遊具を用意し、すぐに遊び出せるような環境を構成する。 入園した喜びや不安、戸惑いなど、一人一人の思いを受け止め、なかなか遊びがみつからない幼児には、思いを受け止めたり、遊びに誘ったりして一緒に遊んだりする。自分の思いで遊びだせるようになるまで、安心感を与えるような声かけや環境構成を心がける。 遊び場や遊具の扱い方などを丁寧に伝えていく。 心地よい季節になり、動植物の生長や活動が活発になっていく様子に興味を持てるようにする。また、外遊びに興味を持てるよう、保育室の廃材等の材料を減らしたり、遊具の精選をしたりして工夫する。

園行事	入園式・身体計測・誕生会・家庭訪問・健康診断
交流・連携	交通安全教室・春の遠足・1年生交流会・幼小連絡会

	幼児は	教師は
あそび	<ul style="list-style-type: none"> 折り紙や塗り絵、粘土、人形やぬいぐるみでのごっこ遊びなど、なじみのある室内遊びで安定しながら遊ぶ。 自分の作りたいものに合わせて素材や材料を選択し、それらを使ってイメージしたものを作って遊ぶ。 園庭の固定遊具を使ったり、キックボード等で友だちと競走したり、鬼ごっこやボール遊びをしたりするなど、身体を動かして遊ぶ。 砂、土、水などの自然素材の性質を活かし、雨どいやスコップなどの道具を使って、試したり工夫したりしながら、イメージしたものを作って遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所や家庭で経験したことのある遊びを用意し、室内や園庭での様子も見ながら安定していけるようにする。 遊びへの思いが広がっていくように、多様な素材、材料を用意したり、考えを表現できるような言葉かけをしたりする。 固定遊具やキックボードの安全な使い方等を知らせながら、思い切り身体を動かして遊べるようにする。 風が心地よい日が多いので、屋外での遊びに目が向くように、室内の遊びの環境をシンプルに（廃材の材料を減らす等）したりする。 用具の慣習的な使い方を伝え、安全に取り扱うことが出来るように十分配慮する。 友だちと試行錯誤できるような材料（長さや太さ形が異なる雨どい、塩ビパイプ、接合部品、板など）を用意する。 一緒に遊びながら、幼児の思いや気付いたことに対して、共感したり賞賛したり、質問したりしながら、遊びの雰囲気盛り上げる。 幼児の思考過程を言葉にしたり、他児に伝える仲介役になったりする。 生き物探しが充実するよう、網や虫かごを準備する。 幼児の動植物への興味・関心が高まるように図鑑や観察ケースを用意する。 見つけた草花や捕まえた生き物を図鑑で調べたりして、幼児の気付きや発見、疑問、驚きを共有する。 遊びかけの状態を保つことで、遊びの続きができるようにする 遊びに必要なものの準備から片付けまで、自分たちで行えるよう、幼児が出し入れしやすい道具や遊具の配置をする。
みんな	<ul style="list-style-type: none"> ルールのある簡単な遊びをする。 季節の花や野菜の種まきをして、水やりなど世話を楽しむ。 季節や行事に応じた製作をする。 小学生に親しみを持って触れあい、共に活動を楽しむ。 季節や行事にかかわる歌や読み聞かせを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールに不慣れな幼児がいるときは、全員でルールを確認する場を設ける。 色水遊び等で使えるような、色が出やすく育てやすいもの（アサガオ、マツバボタンなど）を植える。 世話が簡単で生長もわかりやすく一斉に収穫できるもの（キュウリ、ミニトマト、オクラ）などを植え、収穫後に楽しく会食できる活動につなげる。 表現したい意欲を高め、想像力を膨らませるために、その時期に見た風景や体験したことをみんなで振り返る。 小学生と関わることへの不安を持つ子もいるため、事前に小学生の様子を知らせる機会を設ける。 教師も幼児と一緒に遊び、意欲を高めたり関わり見守ったりする 季節感のある歌や絵本を用意し、行事や出来事に合わせて、みんなで歌ったり読み聞かせをしたりする。
せいかつ	<ul style="list-style-type: none"> 所持品の始末の仕方を知り、進んで自分の持ち物を整理しようとする。 当番活動に進んで取り組もうとする。 時計を意識し、遊びや片付けなどの区切りがわかる。 1年生と合同で交通安全教室に参加し、交通ルールについて知る。 一日を振り返り、楽しかったことについて相手に分かるように話す。 自分の健康に関心を持ち、病気の予防に必要な活動（手洗い・うがい、歯磨き等）を進んで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に丁寧な援助をし、自分でやろうとする気持ちを育むようにする。 自分たちで園生活を進めるうえで当番活動の大切さに気付かせ、自覚を促す。また、責任を持って取り組めるよう、当番表を掲示して確認できるようにする。当番活動をしている姿を賞賛する。 時計に目印をつけ、針の動きを意識するよう伝える。 徒歩での登降園をする子もいるため、交通ルールや望ましいマナーについて、絵本や紙芝居等も使いながら、わかりやすく知らせる。 一日の遊びや活動を振り返り、自分で考えて話す機会を設定する。 幼児の実態を踏まえた健康に関する指導を行い、健康な生活に必要な習慣を身につけるよう促す。また、早寝早起き朝ご飯など生活リズムを整えることも意識できるよう家庭との連携も強化する。

幼稚園 年間指導計画Ⅱ期（5月中旬～7月）

*この時期における幼児の発達	<p>発達の過程</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の仕方や決まりがわかり、自分で遊びを広げていく時期 <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と関わるが増え、友だち関係が広がるが、共に自己主張が強くなり、トラブルが起こりやすくなる。 集団生活のリズムに慣れ、決まりや約束を守って生活しようとする姿が見られる。 育てている動植物の成長に気付いて喜んだり、蝶やセミなど、夏の生き物等に興味をもって関わったりする。
こんなふうに着てほしいな 期待する幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 気の合う友だちと一緒に遊びを楽しむ中で、友だちの良さを認め、互いに考えを出し合いながら、一緒に遊びを作りだそうとする。(あ) 遊びを発展させるために、自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりする。(あ) 目標に向けて根気よく取り組む。(あ) 遊びの中で問題に気付き、うまくいかなかったことを考え、自ら解決しようとする。(み) 梅雨時期から夏へと自然事象の変化に気付き、自然の豊かさを感じ取り、身近な動植物に興味関心をもってかかわろうとする。(み) 自分の体に関心を持ち、健康に必要な習慣を身につける。(せ) 園生活や当番活動について、見通しをもって取り組もうとする。(せ)
だから教師は 援助・環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 期の前半は梅雨時期で雨天が多く室内での遊びが多くなるが、雨音や雨天時の動植物の様子や不思議さにも目が向くようにし、教師も梅雨ならではの遊びを一緒に楽しむようにする。 ほとんどの幼児が園生活に慣れてくるが、遊びや友だちが固定化したり、友だちとの関わりをうまく築けなかったりする幼児もいる。教師が遊びのモデルになったり、一緒に遊びを楽しむことで、様々なことに興味を持てるようにしたり、友だちとのかかわりが持てるよう仲介役になったりする。 友だちと関わりながら、ダイナミックな遊びに取り組むようになるが、教師は焦らずに、幼児の失敗も成功も肯定的に受け止め、幼児のやろうとしていることを見守る。 「みんな」の時間に、たくさんの友だちと様々な遊びをする楽しさを味わえるように促していく。 プールや水遊びでは、水の冷たさや夏ならではの気持ちよさを感じられるようにする。

園行事	保育参加・学級懇談会・プール・園外保育・1学期終業式
交流・連携	避難訓練・七夕交流会（1年生）・保幼小連絡会（夏休）

	幼児は	教師は
あそび	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと共通の目標を持ち、ごっこ遊びなどで、なりたい役を決めたり、必要なものを作ったりして遊ぶ。 自分の思いを伝えるだけでなく、相手の思いを聞いたりしながら、砂、土、水などの自然素材を活かし、雨どいやスコップなどの道具の使い方を試したり、工夫したりして、イメージしたものを仲間と作って遊ぶ。 身近な草花を使って、色水を作ったり、遊びを工夫したり試したりしながら遊ぶ。 その時期の生き物が隠れている場所や特徴、飼育方法などを図鑑で調べ、飼ったりする。 サッカーやドッチボールなど、友だちと一緒に自分たちなりのルールで思い切り身体を動かして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児も遊びが続くように、その子の願いに合うと考えられる材料や素材、場所を提供したり、考えを表現できるような言葉かけをしたりする。 幼児が遊びの進め方などを友だちと相談しているときには、仲介役になる。また、幼児同士の失敗や成功も肯定的に受け止めながら、遊びが発展するよう見守る。 幼児同士の気持ちの行き違いや葛藤に十分に付き合ったり、幼児が自分で気持ちの切り替えを出来るように援助する。 教師も一緒に遊び、幼児の気付きや新しい考えに対して賞賛や質問などの言葉かけを行ったり、それを他の幼児に伝えたりする。 園庭の草花を使った料理やアクセサリ、きれいな色水を賞賛したり、作り方を聞いたりして、幼児の意欲を高める。 身近な自然と触れあう中で、幼児が興味や疑問を追求したり、継続して生き物とかかわったり、成長を見守ったりすることができるよう、幼児と一緒に飼育環境を整えたり、餌を探したり、生命の大切さに気付く体験ができるようにする。 いろいろな遊びの中で、基本的な身体の動きや技能を十分に経験できるように配慮し、一人一人の発達や生活を見通して援助する。 遊んでいる最中に、困ったことが起きたときには、その場で解決に向けた話し合いを促して、気持ちよく遊べるようにする。
みんな	<ul style="list-style-type: none"> ルールのある簡単な遊びをする。 季節にかかわるものや、収穫した野菜を食べたり、友だちと話し合っておやつをわけたり選んだりする。 季節や行事に関して楽しかったことや表現したいことなどを振り返って製作をする。 育てている野菜の世話や収穫を楽しむ。 プールや水遊びを楽しみながら、水に慣れる。 七夕交流会で1年生に親しみをもってかわり、楽しむ。 季節や行事にかかわる歌や読み聞かせを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びやすくなるように、また遊びがより発展するようにルールの変更などを話し合う機会を設ける。 収穫の喜びを全員で味わえるように、園内で収穫した野菜をおやつに使用する。 おやつを均等に分けたり、選択したりするために、グループで話し合う機会を設ける。 包丁やピーラーなどの調理器具を安全に使えるように、手を添えたりして援助する。 表現したい意欲を高め、想像力を膨らませるために、いろいろな材料を使ったり、これまで体験してきた表現方法で表したりできるようにする。 栽培物に関心や愛着を持つことができるように、一人一鉢で栽培する。 育てている野菜の様子を話し合い、幼児が親しみながら栽培に取り組めるようにする。 世話をする経験を通して生き物を大切にすることをもちったり、成長に関心をもったりできるようにする。 安全に楽しむための決まりについて幼児たちに伝え、自分たちで守れるようにする。 水に住む生き物の動きをまねたり、体を動かしたり、楽しみながら水に親しめるようにする。 着替えがスムーズにできるよう、着脱場所をはっきり示し、タオルや足ふきマットを近くに用意する。 小学生と一緒に活動に積極的に参加できるように、教師も一緒に参加したり、幼児の活動の様子を賞賛したりする。 季節感のある絵本や歌を用意し、行事や出来事に合わせて読み聞かせをしたり歌を歌ったりする。
せいかつ	<ul style="list-style-type: none"> 園外保育を通して、交通安全や公共マナーについて理解し、考えて行動する。 当番活動に見通しを持って取り組む。 自分の身の回りを整理整頓しようとする。 1日を振り返り、楽しかったことについて相手に分かるように話す。 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な健康的な活動を進んで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 園外保育で公園へ行く際に、交通ルールや望ましいマナー、集団行動について気付くようにする。 当番活動に取り組む姿を認め、励ます。また様々な当番活動が園生活にとって大切であることを自覚できるような話をする。 持ち物の始末や片付けなどを自分なりに取り組んでいる姿を認める。 当番を通して、1日の遊びや活動を振り返ったり、質問を受けたときに自分で考えて話したりする機会を設ける。 幼児の実態を踏まえた健康に関する指導を行い、健康な生活に必要な習慣を身につけるよう促す。特に、歯の健康等に関する指導は、小学校の養護教諭と連携して行う。

幼稚園 年間指導計画 Ⅲ期（9月～10月）

* 期における幼児の発達	<p>発達の過程</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちとともに生活する楽しさを知っていく時期 <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休み明けで、生活リズムが取り戻せない幼児もいるが、徐々に安定していく。 生活経験が広がると同時に友だち同士の会話が盛んになり、言葉の表現も豊かになる。 遊びや活動の中で、友達と力を合わせて取り組もうという気持ちが見られる。 運動的な遊びが盛んになり、チャレンジ遊びやルールや勝敗のある遊びに関心が高まっている。
こんなかうに育ててほしいな 期待する幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと互いの思いを出し合いながら共通の目的を見だし、一緒に試したり工夫したりしながら、遊びを継続させる。（あ） 体を思い切り動かして遊ぶ楽しさを知り、勝敗を楽しんだり仲間を応援したりする。（あ） 自分なりの目標に向けて、諦めずに挑戦する。（あ） 感じたことや考えたことを様々な方法で表現して楽しむ。（あ） 友だちと一緒にやろうとする気持ちを持ち、同じ目的に向かって最後まで取り組む。（み） 身近な自然に興味や関心を持って関わり、遊びに取り入れようとする。（み） 園生活や当番活動について、見通しを持って取り組もうとする。（せ）
だから教師は 援助・環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの生活からリズムを立て直し、一人一人が安定して園生活を送れるようにする。 夏休みの経験が表現できるよう、一人一人へ話しかけ、経験を引き出すようにする。 運動会の練習では、一人一人の体調に気をつけ、友だちと一緒に取り組むことの楽しさを味わえるようにする 活動の意欲の高まりとともにでる競争心や達成感を認め、自信が持てるようにする。 幼児と相談したり、協力したりしながら、自分たちで生活を組み立てることが出来るよう、十分な時間をとれるようにする。 日々の出来事について一人一人の気持ちに寄り添いながら、場面や機会をとらえ内容によっては周囲の仲間に伝えたりクラスで考えたりする。

園行事	・ 2学期始業式 ・ 身体測定 ・ 誕生会 ・ 園外保育
交流・連携	・ 幼小合同運動会 ・ 保幼小連絡会（職員）

	幼児は	教師は
あそび	<ul style="list-style-type: none"> サッカーや鬼ごっこなど、園庭で体を思い切り動かす遊びを楽しんだり、なわとびや竹馬などの様々な運動遊びに挑戦したり、友達と競争したりして楽しむ。 砂場で雨どいや板、水など、いろいろな素材や道具を使って友だちと一緒にダイナミックな遊びを楽しむ。 自分のしたいことを相手に伝えたり、友だちの話を聞いたり、相手の気持ちに気付いたりしながら遊ぶ。 友だちと一緒に、幼小合同運動会での小学生の演技を真似したり、リズムに合わせて体を動かしたり、自由に踊ったりして楽しむ。 遊びに必要なものを、適切な材料を考えて使い、工夫して作ったり飾ったりして楽しむ。 虫取りなどでは、夏とは違う生き物を捕まえて図鑑で特徴や飼育方法を調べて飼ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの目当てを持って取り組み、持っている力を十分発揮して遊ぶことができるように、運動遊びに必要な道具を準備し、場の確保をする。（ホッピング、竹馬、とびばこ、ペダルローラー、ボール等々） 幼児の気付いていないような問題をさりげなく指摘することで、幼児に新しい視点を与え、遊びが発展するようにする。 思い思いにリズム遊びが楽しめるよう、幼児の興味のある CD や表現するのに必要な物が自由に作れるような素材や材料を準備しておく。 一人一人の発想や表現を共感的に受け止め、多様なイメージを引き出す道具や用具、素材を用意しておく。 図鑑や飼育ケースなどを用意し、身近な自然の変化に対する幼児の気付きに共感したり、他の幼児に伝えたりして、季節の移ろいに気付けるようにしたり、生き物への関心を高められるようにする。
みんな	<ul style="list-style-type: none"> チームで取り組む必要がある、ルールのある簡単な遊びをする。 友だちと一緒に運動会に向けて期待を持って準備したり、同じ目的に向かって取り組もうとしたりする。 行事を通して、楽しかったことや表現したいことなど、イメージに合った方法を考えて製作をする。 季節の花や野菜の栽培のため、みんなで雑草を引いたり土を運んだりして、畑や花壇を整える。 野菜や花の世話をし、生長を喜ぶ。 園外保育では、交通安全や公共マナーについて理解し、考えて行動する。公園までの道のりも楽しみながら、意欲的に参加する。 季節や行事に関わる読み聞かせや、歌、製作を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールについてだけでなく、協力する動きや言葉かけができるような人数を単位とした集団遊びを設定する。 幼児同士の話し合いの場を設け、友だちの頑張りを大切にすること等を友だち同士で認め合えるような雰囲気作りを心がける。 運動会に向けての雰囲気作りをし、楽しく期待を持って参加できるようにする。また、運動会を通して、いろいろな国の国旗に興味を持てるようにし、日本以外にもいろいろな国があることに気付かせる。 一人一人の頑張りを認め、意欲や自信を持たせる。 表現したい意欲を高め、想像力を膨らませるために、いろいろな表現方法を体験させたりする。 生長の仕方の違う野菜（葉茎菜や根菜、果菜等）や花を植え、幼児の気付きや発見を共感的に受け止め、関心が高まるようにする。 園外保育を通して、望ましいマナーや集団行動について気づけるようにする。 季節感のある絵本や歌を用意し、行事や出来事に合わせた読み聞かせをしたり、歌を歌ったりして楽しめるようにする。
せいかつ	<ul style="list-style-type: none"> 片付けの時間や着替え、おやつ時間等、一日の生活の流れを見通して生活をする。 自分の役割に責任を持ち、仲間と協力して当番活動に取り組む。 帰りの集まりの時間に、体験したり、感じたりしたことを、言葉で表現して伝えることを楽しむ。また、友だちの話を集中してきく。 手洗い・うがいをこまめに行い、感染症を予防する。 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な健康的な活動を進んで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字や数字など幼児の興味・関心に沿って、カレンダーや時計を積極的に活用し、月、日、時間の流れを見通し、生活に広がりを持てるようにしていく。 幼児が活動の流れに必要な感を持って自立的に行動しようとする姿を認めていく。 自分たちの生活に必要な当番活動の手順ややり方を話し合う機会を持ち、主体的に当番活動をしている姿を認める。 自分なりの言葉で伝えている姿を認め、うまく伝わらないときには、教師が言葉を足しながら、話し手と聞き手の仲介役をする。 感染症予防に関する指導をし、健康に過ごせるようにする。また、進んで手洗いうがいをを行う姿を賞賛する。 個々の幼児の実態を踏まえた健康に関する指導を行い、健康な生活に必要な習慣を身につけるよう促す。

幼稚園 年間指導計画 IV期（11月～12月）

この時期における幼児の発達	<p>発達の過程</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちとの関係を深める時期 自分の力を十分に発揮して生活に取り組む時期 <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちとイメージを共有し合い、相談しながら遊びを展開させていくようになる。 遊びの内容も豊かになり、工夫したり試したりすることを楽しんでいる。 友だちの得意なことや今まで気付かなかったことを発見し、認め合う姿が見られるようになる。 社会事象に興味を持ちはじめ、話題にするようになる。
こんなかうに育ててほしいな 期待する幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの考えを聞いたり、自分の思いを伝えたりしながら折り合いをつけて遊びを進める。(あ) 問題解決に向けて考えたり、新しい考えを生み出したりをしながら、工夫して遊びを継続させていく。(あ) 自分たちで考えたことを遊びの中で実現したり表現したりしながら遊びを発展させていく。(あ) 目標に向けて見通しをもち、最後までやり遂げる。(あ) 活動がよりよいものになるように、友だちと協力して進めようとする。(み) 季節の移り変わりによる自然の変化や豊かさを感じ、積極的に遊びや生活に取り入れて遊ぶ。(み) 園生活や当番活動について、友だちと協力する良さに気づき、見通しを持って取り組もうとする。(せ)
だから教師は 援助・環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでトラブルを解決していく様子を見守り、幼児が折り合いをつけながら遊びが進められるよう、必要に応じて問いかけたり、共に考えたりしながら支えていく。 クラスの中で一人一人のよさを認め合い、幼児同士のつながりがさらに深まるように援助する。 一人一人の活動への多様な取り組み方を受け止め、知的好奇心や探求心が満たされるように、豊かな環境を用意する。 生活に見通しが持てるようになった幼児らが、自分たちで考えて進めていく活動を信頼し、実現できるように援助し、自信をもてるようにしていく。

園行事	<ul style="list-style-type: none"> 園外保育 避難訓練 就学時健康診断 七五三 個人面談 学習発表会 お楽しみ会
交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> 秋の遠足 小学校との交流

	幼児は	教師は
あそび	<ul style="list-style-type: none"> お店やさんごっこや季節のイベント的な遊びなど、友だちとイメージを出し合い見通しを持って取り組む。 遊びに必要なものを作る際は、素材や材料、用具の組み合わせを工夫して、イメージを実現しようとする。 自然物を使って様々な遊びを楽しみ、素材の感触や物の性質などに気づいたり、感じたりしたことを、イメージを膨らませて表現する。 生活の中の言葉や文字・記号に関心を持ったり、使ったりする。自分たちの表現したいことを伝える手段として、取り入れて遊んだりする。 遊びの進め方について意見を出し合い、約束事を決めたりしながら、体を動かして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だち同士で、互いの考えを伝えようとしている姿を見守る。 一人ひとりのイメージやアイデアが遊びの中で実現していくように、多様な素材や材料を用意したり、言葉かけをしたりする。 完成日や発表する日をみんなで決め、見通しを持って遊びを進められるように、幼児と一緒に計画を立てる。 季節ごとの自然の素材やその性質、自然現象、物の仕組みなどに気づき、それらを遊びに取り入れ自然の不思議さを十分に体験できるようにする。 五十音表や文字や記号に関する絵本等を用意しておき、知りたいと思った時にいつでも自分たちで調べたりできるようにしておく。 トラブルの際は、均等なチーム編成やルールを確認してから遊ぶことの良さを幼児が分かるよう、遊びの内容やルールについて質問する言葉かけを行う。
みんな	<ul style="list-style-type: none"> チームで取り組む、ルールのある簡単な遊びを楽しむ。 小学校合同の発表会に向け、曲や振り付けなどやりたいことを考えたり、必要なものを分担して準備したりする。 風の心地よさや日差しの柔らかさを感じながら、秋の遠足に行き、季節の変化を感じながら木の実や木の葉などを集める。 行事を通して、楽しかったことや表現したいことなど、イメージに合った方法を考えて製作をする。 季節の花の世話をし、生長に関心を持つ。 季節の野菜の世話や収穫を楽しむ。 収穫した野菜を使ってクッキングを楽しむ。 友だちと話し合っておやつを分けたり選んだりする。 季節や行事にかかわる歌を聞いたり歌ったりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールについてだけでなく、協力する動きや言葉かけができるような人数を単位とした集団遊びを設定する。 練習や発表に対し、全体で主体的に取り組めるように、話し合う時間を十分確保する。 発表会に向かって、みんなで協力したり、やりたいことが実現できるよう見守る。 表現したい意欲を高め、想像力を膨らませるために、いろいろな表現方法を体験させたりする。 栽培している花や野菜の様子を話し合うなど、幼児が親しみを持って世話をしたり観察したりできるようにする。 季節感のあるものや収穫した野菜で何を作るかを話し合う機会を設けたりする。 包丁やピーラーなどの調理器具を安全に使えるように、手を添えたりして援助したり、楽しく会食できるような雰囲気作りをする。 季節感のある絵本や歌を用意し、行事や出来事に合わせた読み聞かせをしたり、歌を歌ったりして楽しめるようにする。
せいかつ	<ul style="list-style-type: none"> 天気や気温によって衣服の着脱の調整を考えて行動する。 自分の役割に責任を持ち、仲間と協力して当番活動に取り組む。 帰りの集まりの時間には、友だちや教師の話を中心して聞き、質問や感想を伝え合う。 手洗い・うがいをこまめに行い、感染症を予防する。 自分の健康に関心を持ち、病気の予防に必要な活動を進んで行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 天候や気温、活動内容によって、見通しを持ち自分で衣服の調整ができるように援助する。 主体的に当番活動をしている姿を認める。 その日の遊びを自分なりに振り返ったり、友だちから質問された際には自分なりに考えて話したりする機会を設ける。 感染症予防に関する指導や、手洗い、うがいの大切さなどを伝え健康にすごせるようにする。また、進んで手洗いうがいをを行う姿を賞賛する。 個々の幼児の実態を踏まえた健康に関する指導を行い、健康に関する必要な習慣を身につけるように促す。

幼稚園 年間指導計画 V期（1月～3月）

* 期における幼児の発達	<p>発達の過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達同士で目的を持って園生活を展開し、深めていく時期 ・ 就学を意識する時期 <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活や活動に見通しがつくようになり、物事に積極的に取り組むようになる。 ・ 活動に集中する時間が長くなる。 ・ 文字や数を使ったゲームを楽しんでいる。 ・ もうすぐ一年生になるという自覚を持ち、自主的に行動しようとする姿が見られる。
こんなふうに育ててほしいな 〔期待する幼児の姿〕	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明確な目標や見通しをもち、最後までやり遂げる。 (あ) ・ 友達と話し合いながら協力したり、役割を分担したりして、遊びを発展させるよさに気付く。 (あ) ・ 考えたことや感じたことを相手にわかるように話したり、友だちの考えを聞いたりして、主体的に話し合う。 (あ) ・ 園生活の中で生活に見通しを持ち、時間を意識して行動する。 (あ) ・ 共通の目的を持ち、これまでの経験を生かして主体的に活動しようとする。 (み) ・ 幼稚園生活を振り返って自己の成長に気付き、就学への期待や目標を持つ。 (み) ・ 園生活や当番活動について、自主的に取り組もうとする。 (せ)
だから教師は 〔援助・環境構成〕	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園最後の学期となり、これまで培った経験が遊びに十分に活かされるように、幼児のやりたい遊びを援助する。幼児が達成感や充実感を得られるよう、遊びに使う素材を十分に準備し、遊びの内容が深まるよう心がける。 ・ 個々やグループで相談しながら取り組む時間、学級全体で取り組む時間など様々な状況を作り、自分たちで生活の変化やリズムを作り出していけるようにする。 ・ 一人一人が大切な仲間であり、クラス全体がつながっている心地よさを味わえるようにする。また、一人一人が自信と誇りを持って就学を迎えられるようにする。

園行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3学期始業式・身体計測・誕生会・節分・ひなまつり ・ クッキング ・ 体験入園（次年度入園予定児との交流） ・ 修了式
交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生との交流（体験入学）・保幼小連絡会

	幼児は	教師は
あそび	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと一緒に遊びをつくりあげる楽しさを知り、共通の目標や見通しを持って遊びを進めていく。 ・ 素材や材料を選択し、必要な物をつくったりやりたい役になったりして、ごっこ遊びなどを楽しむ。 ・ カルタやトランプ、すごろくなど室内での遊びも楽しみながら、文字に親しんだり、数や時間を競い合ったりする。 ・ 年賀状をもらったり、友だちから手紙をもらったりした経験から、教師や友だちに簡単な手紙を書いたりして手紙のやりとりを楽しむ。 ・ コマ回しやあやとりなど、難しい技に挑戦したり、友だちと教え合ったり、勝負をしたりして遊ぶ。 ・ 縄跳び、竹馬、てつぼうなどの体を十分に使う遊びを通して、難しい技に挑戦したり、高めたりして技能を磨き合う。 ・ 新しく出てきた遊びなどで、遊び方について自分たちで約束事を決めたり、自分で考えた動き方や楽しみ方を伝えたりしてみんなで楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと協力して遊びを進めていけるように、一人一人の考えや発想を大切に見守っていく。 ・ 自分たちで完成や発表する日を決めるなど、幼児が主体的に見通しを持つことができるように見守る。 ・ 自分たちで作りあげる楽しさや達成感を味わえるように、あえて言葉かけを少なくし、援助は最小限にする。 ・ 教師も一緒に楽しみながら、おおまかなルールを確認していく。 ・ 文字などの記号を使って楽しみたいという思いを受け止め、個々の発達の実情に即して、関心が持てるよう丁寧に援助をしていく。 ・ 友だちと互いに教え合ったり、刺激し合ったりしている姿を認める。 ・ 遊びをより楽しめるように、幼児同士でルールや遊び方を考えたり相談したりするような言葉をかける。 ・ 幼児の考えた動きについて、賞賛したり質問したりする。 ・ 自分たちで作りだした遊びを仲間同士で楽しむ姿を見守る
みんな	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームで取り組むことが必要な、ルールのある遊びや伝承遊びを楽しむ。 ・ 言葉あそび（しりとりや回文等）やなぞなぞなど、言葉の持つ意味の面白さや言い回しなどに触れ、楽しむ。 ・ 季節や行事にかかわるものを食べたり、友だちと分けたりする。 ・ 季節や行事に関する製作では、これまで体験してきた方法を活かして製作をする。 ・ 小学校1年生との交流会に参加し、小学校の生活や学習の様子を体験する。 ・ 秋に植えた野菜を喜んで収穫し、収穫した数や大きさを友だちと比べたりして楽しむ。 ・ 幼稚園最後のクッキングのメニューを話し合い、クッキングを楽しむ。また、苦手な野菜も食べてみようとする。 ・ 次の入園予定の幼児との交流で、年下の幼児と遊んだり、幼稚園生活の仕方を教えたりする。 ・ 幼稚園での思い出やこれからの期待を友だちと伝えあい、幼稚園修了や就学への思いを表現する。 ・ 幼稚園修了を前に、これまで生活してきた園舎や遊具に感謝の気持ちを持ち、きれいにしたり清掃したりする。 ・ 季節や行事にかかわる読み聞かせや歌を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールのある遊びや伝承遊びを体験し、ルールや技のコツなどについて話したり教えたりする機会を設ける。 ・ 日本語のリズムや響きのおもしろさ、美しさに気付けるようにしたり、同音異義語や対義語など、みんなで考えたり教え合ったりして楽しめるようにする。 ・ 季節感のあるおやつを用意したり、余りのある数の分け方を考えたりするためにグループで話し合う機会を設けたりする。 ・ 表現したい意欲を高め、想像力を膨らませるために、いろいろな材料や道具を使い、様々な表現方法を体験させたりする。 ・ 小学校との交流会で幼児が積極的に活動に参加できるように見守りながら、小学生への憧れを持ち小学校生活に期待を持てるようにしていく。 ・ 大事に育ててきた野菜の収穫を通し、幼児なりの感覚で大きさや数量比べなどを楽しみながら、収穫の喜びを感じられるようにする。 ・ 収穫した野菜を使って、幼稚園最後のクッキングで何を作るかを話し合う機会を設定する。 ・ 包丁やピーラーなどの調理器具を安全に使えるように、手を添えたりして援助したり、楽しく会食できるような雰囲気作りをする。 ・ 年下の幼児に優しく接したりしている姿を認めていく。 ・ 一人一人が自分の成長に気付き、自信と誇りを持って就学を迎えられるようにする。 ・ 自分たちが大事に使ってきた園舎や遊具に感謝の気持ちを持たせながら、次の幼稚園生に引き継いでいくことにも気付かせるようにする。 ・ 季節感のある絵本や歌やこれまで幼稚園で親しんできた絵本や歌を用意し、楽しめるようにする。
せいかつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで遊びの場や生活の場を進んで整えていく。 ・ 一日の予定を見ながら、活動の区切りを意識し見通しを持って生活する ・ 帰りの会で、友だちや教師の話を中心して聞き、話の内容を理解し、質問や感想を伝え合ったりする。 ・ 手洗いやうがいを丁寧にやる。 ・ 自分の健康に関心を持ち、好き嫌いを減らしたり病気の予防に必要な活動を進んで行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が主体的に遊んだり生活したりできるように、活動の内容などを幼児同士で話し合いながら決めていけるようにする。 ・ 時計の目印や白板に示された一日の予定を意識し、自分で判断して行動する姿を賞賛する。 ・ 聞き手が感想や自分の考えを話す機会を設定する。 ・ 生活の一部として手洗いやうがいをやる姿を賞賛する。 ・ 幼児の個々の実態を踏まえた健康に関する指導を行い、健康に関する必要な習慣を身につけるように促す。

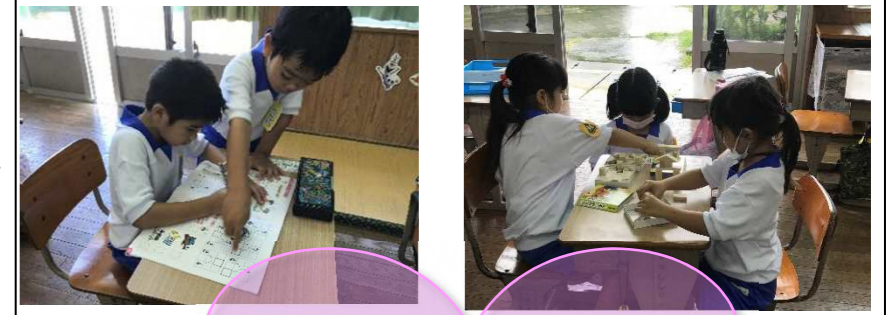
期	I 期	II 期	III 期	IV 期	V 期
発達 の姿	<p>発達の過程 園生活に親しみ安定していく時期</p> <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい園に期待感をもって登園する幼児もいるが、新しい環境に対し、不安で泣いたりぐずったりする幼児もいる。 ・日が経つにつれ、ほとんどの幼児は環境になじみ、気に入った遊具や場所を見つけて自分から遊ぶ姿が見られるが、不安で保育者の側を離れられない幼児もいる。 ・同じ場においても、それぞれの気持ちで遊んでいる。 	<p>発達の過程 生活の仕方や園の決まりがわかり、自分で遊びを広げていく時期</p> <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わることが増え、友だち関係が広がるが、共に自己主張が強くなり、トラブルが起りやすくなる。 ・集団生活のリズムに慣れ、決まりや約束を守って生活しようとする姿が見られる。 ・育てている動植物の成長に気付いて喜んだり、蝶やセミなど、夏の生き物等に興味をもって関わったりする。 	<p>発達の過程 友だちとともに生活する楽しさを知っていく時期</p> <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み明けで、生活リズムが取り戻せない子もいるが、徐々に安定していく。 ・生活経験が広がると同時に友だち同士の会話が盛んになり、言葉の表現も豊かになる。 ・遊びや活動の中で、友達と力を合わせて取り組もうという気持ちがみられる。 ・運動的な遊びが盛んになり、チャレンジ遊びやルールや勝敗のある遊びに関心が高まっている。 	<p>発達の過程 ・友だちとの関係を深める時期 ・自己の力を十分に発揮して生活に取り組む時期</p> <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとイメージを共有し合い、相談しながら遊びを展開させていくようになる。 ・遊びの内容も豊かになり、工夫したり試したりすることを楽しんでいる。 ・友だちの得意なことや今まで気付かなかったことを発見し、認め合う姿が見られるようになる。 ・社会事象に興味を持ちはじめ、話題にするようになる。 	<p>発達の過程 ・友達同士で目的を持って園生活を展開し、深めていく時期 ・就学を意識する時期</p> <p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や活動に見通しがつくようになり、物事に積極的に取り組むようになる。 ・活動に集中する時間が長くなる。 ・文字や数を使ったゲームを楽しんでいる。 ・もうすぐ一年生になるという自覚を持ち、自主的に行動しようとする姿が見られる。
こんな風 に育てほしい (期待する 幼児の姿や 教師のねらい)	<ul style="list-style-type: none"> (あ)友だちや環境に少しずつ慣れ、安心して自分の好きな遊びをみつけて遊ぶ。 (あ)保育園での経験を活かしたり、新しい友だちの遊びに刺激を受けたりしながら、新しいことを試してみようとする。 (あ)友だちと関わりながら、一緒に遊びをつくりだそうとする。 (み)園生活の仕方や園生活には必要な決まりがあることを知り、自分から守ろうとする。 (み)季節ごとの自然の変化や豊かさを感じたり、身近な動植物に興味や関心を持ってかかわろうとしたりする。 (せ)園生活や簡単な当番活動に、進んで取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> (あ)気の合う友だちと一緒に遊びを楽しむ中で、友だちの良さを認め、互いに考えを出し合いながら、一緒に遊びを作りだそうとする。 (あ)遊びを発展させるために、自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりする。 (あ)目標に向けて根気よく取り組む。 (あ)遊びの中で問題に気付き、うまくいかなかったことを考え、自ら解決しようとする。 (み)梅雨時期から夏へと自然事象の変化に気付き、自然の豊かさを感じ取り、身近な動植物に興味関心をもってかかわろうとする。 (み)自分の体に関心を持ち、健康に必要な習慣を身につける。 (せ)園生活や当番活動について、見通しをもって取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> (あ)友だちと共通の目的を見だし、一緒に試したり工夫したりしながら、遊びを継続させる。 (あ)体を思い切り動かして遊ぶ楽しさを知り、勝敗を楽しんだり仲間を応援したりする。 (あ)自分なりの目標に向けて、諦めずに挑戦する。 (あ)感じたことや考えたことを様々な方法で表現して楽しむ。 (み)友だちと一緒にやり遂げようとする気持ちを持つ。 (み)身近な自然に興味や関心を持って関わり、遊びに取り入れようとする。 (せ)園生活や当番活動について、見通しを持って取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> (あ)友だちの考えを聞いたり、自分の思いを伝えたりしながら折り合いをつけて遊びを進める。 (あ)問題解決に向けて考えたり、工夫したりしながら遊びを継続させていく。 (あ)自分たちで考えたことを遊びの中で実現したり表現したりしながら遊びを発展させていく。 (あ)目標に向けて見通しをもち、最後までやり遂げる。 (み)活動がよりよいものになるように、友だちと協力して進めようとする。 (み)季節の移り変わりによる自然の変化や豊かさを感じ、積極的に遊びや生活に取り入れて遊ぶ。 (せ)園生活や当番活動について、友だちと協力する良さにきづき、見通しを持って取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> (あ)明確な目標や見通しをもち、最後までやり遂げる。 (あ)友だちと話し合いながら協力したり、役割を分担したりして、遊びを発展させる。 (あ)考えたことや感じたことを相手にわかるように話したり、友だちの考えを聞いたりして、主体的に話し合う。 (あ)園生活の中で生活に見通しを持ち、時間を意識して行動する。 (み)共通の目的を持ち、これまでの経験を生かして、主体的に活動しようとする。 (み)幼稚園生活を振り返って自己の成長に気付き、就学への期待や目標を持つ。 (せ)園生活や当番活動について、自主的に取り組もうとする。
だから教師は (援助、環境 構成)	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびと安定した気持ちで生活ができるように活動の流れに沿って時間や場を設定し、ゆとりが持てるようにする。 ・興味を持って、自分から動きだしたくなるような、保育所や家庭でなじみのある遊具を用意し、すぐに遊び出せるような環境を構成する。 ・入園した喜びや不安、戸惑いなど、一人一人の思いを受け止め、なかなか遊びがみつからない幼児には、思いを受け止めたり、遊びに誘ったりして一緒に遊んだりする。自分の思いで遊びだせるようになるまで、安心感を与えるような声かけや環境構成を心がける。 ・遊び場や遊具の扱い方などを丁寧に伝えていく。 ・心地よい季節になり、動植物の生長や活動が活発になっていく様子に興味を持てるようにする。また、外遊びに興味を持てるよう、保育室の廃材等の材料を減らしたり、遊具の精選をしたりして工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期の前半は梅雨時期で雨天が多く室内での遊びが多くなるが、雨音や雨天時の動植物の様子や不思議さにも目が向くようにし、教師も梅雨ならではの遊びと一緒に楽しむようにする。 ・ほとんどの幼児が園生活に慣れてくるが、遊びや友だちが固定化したり、友だちとの関わりをうまく築けなかったりする幼児もいる。教師が遊びのモデルになったり、一緒に遊びを楽しむことで、様々なことに興味を持てるようになり、友だちとのかかわりが持てるよう仲介役になったりする。 ・友だちと関わりながら、ダイナミックな遊びに取り組むようになるが、教師は焦らずに、幼児の失敗も成功も肯定的に受け止め、幼児のやろうとしていることを見守る。 ・「みんな」の時間に、たくさんの友だちと様々な遊びをする楽しさを味わえるように促していく。 ・プールや水遊びでは、水の冷たさや夏ならではの気持ちよさを感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの生活からリズムを立て直し、一人一人が安定して園生活を送れるようにする。 ・夏休みの経験が表現できるよう、一人一人へ話しかけ、経験を引き出すようにする。 ・運動会の練習では、一人一人の体調に気をつけ、友だちと一緒に取り組むことの楽しさを味わえるようにする ・活動の意欲の高まりとともにでる競争心や達成感を認め、自信が持てるようにする。 ・幼児と相談したり、協力したりしながら、自分たちで生活を組み立てることが出来るよう、十分な時間をとれるようにする。 ・日々の出来事について一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、場面や機会をとらえ内容によっては周囲の仲間に伝えたりクラスで考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでトラブルを解決していく様子を見守りながら、折り合いをつけながら遊びが進められるよう、必要に応じて問いかけたり、共に考えたりしながら支えていく。 ・クラスの中で一人一人のよさを認め合い、幼児同士のつながりがさらに深まるように援助する。 ・一人一人の活動への多様な取り組み方を受け止め、知的好奇心や探求心が満たされるように、豊かな環境を用意する。 ・生活に見通しを持てるようになった幼児らが、自分たちで考えて進めていく活動を信頼し、実現できるように援助し、自信をもてるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園最後の学期となり、これまで培った経験が遊びに存分に活かされるように、幼児のやりたい遊びを援助する。幼児が達成感や充実感を得られるよう、遊びに使う素材を十分に準備し、遊びの内容が深まるよう心がける。 ・個々やグループで相談しながら取り組む時間、学級全体で取り組む時間など様々な状況を作り、自分たちで生活の変化やリズムを作り出し、進められるようにする。 ・一人一人が大切な仲間であり、クラス全体がつながっている心地よさを味わえるようにする。また、一人一人が自信と誇りを持って就学を迎えられるようにする。
園 行事	<ul style="list-style-type: none"> ・入園式 ・身体計測 ・家庭訪問 ・誕生会 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加・学級懇談会・プール・園外保育 ・1学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期始業式 ・身体測定 ・誕生会 ・園外保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育・避難訓練・就学時健康診断・誕生会 ・七五三・個人面談・学習発表会・お楽しみ会 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期始業式・身体計測・誕生会・体験入園 ・節分・ひなまつり・クッキング・修了式
交流 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室・春の遠足・小学校1年生との交流 ・幼小連絡会(職員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・七夕交流会・保幼小連絡会(夏休) 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小合同運動会 ・幼小連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の遠足 ・小学校との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生との交流・保幼小連絡会

接続期カリキュラム あそび

期	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ期(小学校生活で現れる姿)	10の姿
幼児は	<ul style="list-style-type: none"> サッカーや鬼ごっこなど、園庭で体を思い切り動かす遊びを楽しんだり、なわとびや竹馬などの様々な運動遊びに挑戦したり、友達と競争したりして楽しむ。 砂場で雨どいや板、水など、いろいろな素材や道具を使って友達と一緒にダイナミックな遊びを楽しむ。 自分のしたいことを相手に伝えたり、友だちの話を聞いたり、相手の気持ちに気付いたりしながら遊ぶ。 友だちと一緒に、幼小合同運動会での小学生の演技を真似したり、リズムに合わせて体を動かしたり、自由に踊ったりして楽しむ。 遊びに必要なものを、適切な材料を考えて使い、工夫して作ったり飾ったりすることを楽しむ。 虫取りなどでは、夏とは違う生き物を捕まえて図鑑で特徴や飼育方法を調べて飼ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> お店やさんごっこや季節のイベント的な遊びなど、友だちとイメージを出し合い見通しを持って取り組む。 遊びに必要なものを作る際は、素材や材料、用具の組み合わせを工夫して、イメージを実現しようとする。 自然物を使って様々な遊びを楽しみ、素材の感触や物の性質などに気づいたり、感じたりしたことを、イメージを膨らませて表現する。 生活の中の言葉や文字・記号に関心を持ったり、使ったりする。自分たちの表現したいことを伝える手段として、取り入れて遊んだりする。 遊びの進め方について意見を出し合い、約束事を決めたりしながら、体を動かして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に遊びをつくりあげる楽しさを知り、共通の目標や見通しを持って遊びを進めていく。 素材や材料を選択し、必要な物をつくったりやりたい役になったりして、ごっこ遊びなどを楽しむ。 カルタやトランプ、すごろくなど室内での遊びも楽しみながら、文字に親しんだり、数や時間を競い合ったりする。 年賀状をもらったり、友だちから手紙をもらったりした経験から、教師や友だちに簡単な手紙を書いたりして手紙のやりとりを楽しむ。 コマ回しやあやとりなど、難しい技に挑戦したり、友だちと教え合ったり、勝負をしたりして遊ぶ。 また、縄跳び、竹馬、てつぼうなどの体を十分に使う遊びを通して、難しい技に挑戦したり、高めたりして技能を磨き合う。 新しく出てきた遊びなどで、遊び方について自分たちで約束事を決めたり、自分で考えた動き方や楽しみ方を伝えたりしてみんなで楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育等での運動遊びや、休み時間などに友だちと一緒に楽しく過ごす 様々な場面でのびのびと行動する。 すぐにはできないことも、目標に向かって粘り強く取り組んだりする。 友だちの良さに気付き、自分の思いや考えなどを相手にわかるように伝えて遊びに誘ったりする。 共通の目的にむけて友だちと話し合い、協力して取り組む。 相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりしながら、気持ちや行動に折り合いを付けてより楽しく遊べるようにルールを話し合う。 新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって自ら考えたり、判断したりして多様に関わる。 探究心を持って、予想したり、試したりしながら、主体的に問題を解決しようとする。 生き物と関わり、生命あるものを大切に、生きることのすばらしさを感じたり、考えを深めたりする。 日常生活の中にある標識や文字などに関心を持ち、学んだことを使おうとする。 	<p>健康な心と体</p> <p>自立心</p> <p>協同性</p> <p>道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>思考力の芽生え</p> <p>自然との関わり・生命尊重</p> <p>数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p>
教師は	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの目当てを持って取り組み、持っている力を十分発揮して遊ぶことができるように、運動遊びに必要な道具を準備し、場の確保をする。(ホッピング、竹馬、とびばこ、ペダルローラー、ボール等々) 幼児の気付いていないような問題をさりげなく指摘することで、幼児に新しい視点を与え、遊びが発展するようにする。 思い思いにリズム遊びが楽しめるよう、幼児の興味のあるCDや表現するのに必要な物が自由に作れるような素材や材料を準備しておく。 一人一人の発想や表現を共感的に受け止め、多様なイメージを引き出す道具や用具、素材を用意しておく。 図鑑や飼育ケースなどを用意し、身近な自然の変化に対する幼児の気付きに共感したり、他の幼児に伝えたりして、季節の移ろいに気付けるようにしたり、生き物への関心を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だち同士で、互いの考えを伝えようとしている姿を見守る。 一人ひとりのイメージやアイデアが遊びの中で実現していくように、多様な素材や材料を用意したり、言葉かけをしたりする。 完成日や発表する日をみんなで決め、見通しを持って遊びを進められるように、幼児と一緒に計画を立てる。 季節ごとの自然の素材やその性質、自然現象、物の仕組みなどに気付き、それらを遊びに取り入れ自然の不思議さを十分に体験できるようにする。 五十音表や文字や記号に関する絵本等を用意しておき、知りたいと思った時にいつでも自分たちで調べたりできるようにしておく。 トラブルの際は、均等なチーム編成やルールを確認してから遊ぶことの良さを幼児が付くよう、遊びの内容やルールについて質問する言葉かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと協力して遊びを進めていけるように、一人一人の考えや発想を大切に、見守っていく。 自分たちで完成や発表する日を決めるなど、幼児が主体的に見通しを持つことができるように見守る。 自分たちで作りあげる楽しさや達成感を味わえるように、あえて言葉かけを少なくし、援助は最小限にする。 教師も一緒に楽しみながら、おおまかなルールを確認していく。 文字などの記号を使って楽しみたいという思いを受け止め、個々の発達の実情に即して、関心が持てるよう丁寧に援助をしていく。 友だちと互いに教え合ったり、刺激し合ったりしている姿を認める。 遊びをより楽しめるように、幼児同士でルールや遊び方を考えたり相談したりするような言葉をかける。 幼児の考えた動きについて、賞賛したり質問したりする。 自分たちで作りだした遊びを仲間同士で楽しむ姿を見守る 	 <p>教師は…</p> <p>子どもに尋ねる 子どもに選ばせる 子どもに決めさせる</p>	

接続期カリキュラム **みんな**

期	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ期(1年生スタート期)	10の姿
幼児は	<ul style="list-style-type: none"> チームで取り組む必要がある、ルールのある簡単な遊びをする。 友だちと一緒に運動会に向けて期待を持って準備したり、同じ目的に向かって取り組もうとしたりする。 行事を通して、楽しかったことや表現したいことなど、イメージに合った方法を考え、製作をする。 季節の花や野菜の栽培のため、みんなで雑草を引いたり土を運んだりして、畑や花壇を整える。 野菜や花の世話をし、生長を喜ぶ。 園外保育では、交通安全や公共マナーについて理解し、考えて行動する公園までの道のりも楽しみながら、意欲的に参加する。 季節や行事に関わる読み聞かせや、歌、製作を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> チームで取り組む、ルールのある簡単な遊びを楽しむ。 小学校合同の発表会に向け、曲や振り付けなどやりたいことを考えたり、必要なものを分担して準備したりする。 風の心地よさや日差しの柔らかさを感じながら、秋の遠足に行き、季節の変化を感じながら木の実や木の葉などを集める。 行事を通して、楽しかったことや表現したいことなど、イメージに合った方法を考え、製作をする。 季節の花の世話をし、生長に関心を持つ。 季節の野菜の世話や収穫を楽しむ。 収穫した野菜を使ってクッキングを楽しむ。 友だちと話し合っておやつを分けたり選んだりする。 季節や行事にかかわる歌を聞いたり歌ったりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> チームで取り組むことが必要な、ルールのある遊びや伝承遊びを楽しむ。 言葉あそび(しりとりや回文等)やなぞなぞなど、言葉の持つ面白さや言い回しなどに触れ、楽しむ。 季節や行事にかかわるものを食べたり、友だちと分けたりする。 季節や行事に関する製作では、これまで体験してきた方法を活かして製作をする。 小学校1年生との交流会に参加し、小学校の生活や学習の様子を体験する。 秋に植えた野菜を喜んで収穫し、収穫した数や大きさを友だちと比べたりして楽しむ。 幼稚園最後のクッキングのメニューを話し合い、クッキングを楽しむ。また、苦手な野菜も食べてみようとする。 次の入園予定の幼児との交流で、年下の幼児と遊んだり、幼稚園生活の仕方を教えたりする。 幼稚園での思い出やこれからの期待を友だちと伝えあい、幼稚園修了や就学への思いを表現する。 幼稚園修了を前に、これまで生活してきた園舎や遊具に感謝の気持ちを持ち、きれいにしたり清掃したりする。 季節や行事にかかわる読み聞かせや歌を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通ルールを守ったり、安全な生活のために必要なことを自らしたりしようとする。 自分なりに考えて意見を言ったり、わからないことや難しいことを教師や友だちに聞いたりして粘り強く取り組んだりする。 学級などの集団生活の中で、共通の目的に向かって自分の力を発揮しながら友だちと協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりする。 教師や友だちと協力して生活したり学び合ったりする。 友だちの気持ちに共感し、ルールを守りながら活動や遊びに取り組む。 相手の状況や気持ちを考えながら、いろいろな人と関わることを楽しむ。 身近なものとの関わりから気付いた情報を積極的に取り入れて活用し、楽しみながら伝えたりする。 公共施設などに出かけ、地域の様々な文化に触れることを楽しんで興味や関心を深めたり、地域の人と関わったりしながら、社会との繋がりを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり
	教師は	<ul style="list-style-type: none"> ルールについてだけでなく、協力する動きや言葉かけができるような人数を単位とした集団遊びを設定する。 幼児同士の話し合いの場を設け、友だちの頑張りを大切にすること等を友だち同士で認め合えるような雰囲気作りを心がける。 運動会に向けての雰囲気作りをし、楽しく期待を持って参加できるようにする。また、運動会を通して、いろいろな国の国旗に興味を持てるようにし、日本以外にもいろいろな国があることに気付かせる。 一人一人の頑張りを認め、意欲や自信を持たせる。 表現したい意欲を高め、想像力を膨らませるために、いろいろな表現方法を体験させたりする。 生長の仕方の違う野菜(葉茎菜や根菜、果菜等)や花を植え、幼児の気付きや発見を共感的に受け止め、関心が高まるようにする。 園外保育を通して、望ましいマナーや集団行動について気づけるようにする。 季節感のある絵本や歌を用意し、行事や出来事に合わせた読み聞かせをしたり、歌を歌ったりして楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールについてだけでなく、協力する動きや言葉かけができるような人数を単位とした集団遊びを設定する。 練習や発表に対し、全体で主体的に取り組めるように、話し合う時間を十分確保する。 発表会に向かって、みんなで協力したり、やりたいことが実現できるよう見守る。 表現したい意欲を高め、想像力を膨らませるために、いろいろな表現方法を体験させたりする。 栽培している花や野菜の様子を話し合うなど、幼児が親しみをもちて世話をしたり観察したりできるようにする。 季節感のあるものや収穫した野菜で何を作るかを話し合う機会を設けたりする。 包丁やピーラーなどの調理器具を安全に使えるように、手を添えたりして援助したり、楽しく会食できるような雰囲気作りをする。 季節感のある絵本や歌を用意し、行事や出来事に合わせた読み聞かせをしたり、歌を歌ったりして楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールのある遊びや伝承遊びを体験し、ルールや技のコツなどについて話したり教えたりする機会を設ける。 日本語のリズムや響きのおもしろさ、美しさに気付けるようにしたり、同音異義語や対義語など、みんなで考えたり教え合ったりして楽しめるようにする。 季節感のあるおやつを用意したり、余りのある数の分け方を考えたりするためにグループで話し合う機会を設けたりする。 表現したい意欲を高め、想像力を膨らませるために、いろいろな材料や道具を使い、様々な表現方法を体験させたりする。 小学校との交流会で幼児が積極的に活動に参加できるよう見守りながら、小学生への憧れを持ち小学校生活に期待を持てるようにしていく。 大事に育ててきた野菜の収穫を通し、幼児なりの感覚で大きさや数量比べなどを楽しみながら、収穫の喜びを感じられるようにする。 収穫した野菜を使って、幼稚園最後のクッキングで何を作るかを話し合う機会を設定する。 包丁やピーラーなどの調理器具を安全に使えるように、手を添えたりして援助したり、楽しく会食できるような雰囲気作りをする。 年下の幼児に優しく接したりしている姿を認めていく。 一人一人が自分の成長に気付き、自信と誇りを持って就学を迎えられるようにする。 自分たちが大事に使ってきた園舎や遊具に感謝の気持ちを持たせながら、次の幼稚園生に引き継いでいくことにも気付かせるようにする。 季節感のある絵本や歌やこれまで幼稚園で親しんできた絵本や歌を用意し、楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や学習において、身近な自然の美しさや不思議さに感動したり、関心を持ったりする。 自分たちの遊びや生活の中で、楽しみながら数えたり比べたりして、実感を伴って理解する。 自分の気持ちや考えを適切に表現する方法を選んだりする。 感性を働かせ、自信を持って表現することを楽しむ




教師は…

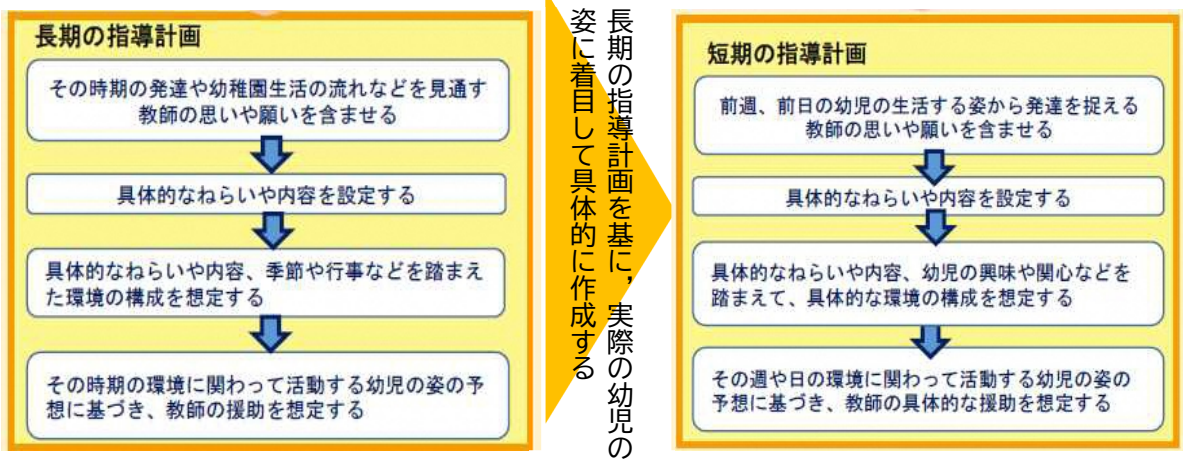
子どもに尋ねる
子どもに選ばせる
子どもに決めさせる



接続期カリキュラム **せいかつ**

期	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ (小学校生活で現れる姿)	10の姿
幼児は	<ul style="list-style-type: none"> 片付けの時間や着替え、おやつの時間等、一日の生活の流れを見通して生活をする。 自分の役割に責任を持ち、仲間と協力して当番活動に取り組む。 帰りの集まりの時間に、体験したり、感じたりしたことを、言葉で表現して伝えることを楽しむ。また、友だちの話を集中してきく。 手洗い・うがいをこまめに行い、感染症を予防する。 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な健康的な活動を進んで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 天気や気温によって衣服の着脱の調整を考えて行動する。 自分の役割に責任を持ち、仲間と協力して当番活動に取り組む。 帰りの集まりの時間には、友だちや教師の話を集中して聞き、質問や感想を伝え合う。 手洗い・うがいをこまめに行い、感染症を予防する。 自分の健康に関心を持ち、病気の予防に必要な活動を進んで行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで遊びの場や生活の場を進んで整えていく。 一日の予定を見ながら、活動の区切りを意識し見通しを持って生活する 帰りの会で、友だちや教師の話を集中して聞き、話の内容を理解し、質問や感想を伝え合ったりする。 手洗いやうがいを丁寧に行う。 自分の健康に関心を持ち、好き嫌いを減らしたり病気の予防に必要な活動を進んで行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間割を含めた生活の流れが分かり、次の活動を考えて準備をする（見通しをもって行動する） しなければならないことを自覚し、自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む 日直や当番活動など、友だちと協力したり生活したり学びあったりする。 自己紹介などで、初めて出会う先生や友だちと新たな人間関係を築く。 自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする。 相手の話を聞いて理解したり、言葉による伝え合いを楽しんだりする。 	<p>健康な心と体</p> <p>自立心</p> <p>協同性</p> <p>言葉による伝えあい</p>
	教師は	<ul style="list-style-type: none"> 文字や数字など幼児の興味・関心に沿って、カレンダーや時計を積極的に活用し、月、日、時間の流れを見通し、生活に広がりを持たせるようにしていく。 幼児が活動の流れに必要な感覚を持って自立的に行動しようとする姿を認めていく。 自分たちの生活に必要な当番活動の手順ややり方を話し合う機会を持ち、主体的に当番活動をしている姿を認める。 自分なりの言葉で伝えている姿を認め、うまく伝わらないときには、教師が言葉を足しながら、話し手と聞き手の仲介役をする。 感染症予防に関する指導をし、健康に過ごせるようにする。また、進んで手洗いうがいを行う姿を賞賛する。 個々の幼児の実態を踏まえた健康に関する指導を行い、健康な生活に必要な習慣を身につけるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 天候や気温、活動内容によって、見通しを持ち自分で衣服の調整ができるように援助する。 主体的に当番活動をしている姿を認める。 その日の遊びを自分なりに振り返ったり、友だちから質問された際には自分なりに考えて話したりする機会を設ける。 感染症予防に関する指導や、手洗い、うがいの大切さなどを伝え健康に過ごせるようにする。また、進んで手洗いうがいを行う姿を賞賛する。 個々の幼児の実態を踏まえた健康に関する指導を行い、健康に関する必要な習慣を身につけるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児が主体的に遊んだり生活したりできるように、活動の内容などを幼児同士で話し合いながら決めていけるようにする。 時計の目印や白板に示された一日の予定を意識し、自分で判断して行動する姿を賞賛する。 聞き手が感想や自分の考えを話す機会を設定する。 生活の一部として手洗いうがいを行う姿を賞賛する。 幼児の個々の実態を踏まえた健康に関する指導を行い、健康に関する必要な習慣を身につけるように促す。 	

③ 指導計画作成に向けたイメージ図（文科省）



④ 記録を週案に活かす保育シート

<R 元年度，上越教育大付属幼稚園「子どもを支える保育」～評価を通して～参照>

○実践保育 1 月 18 日～22 日 北幼稚園

- 保育を振り返り、子どもの姿や友だち同士のやりとり，教師の援助等を記録していく。
- 遊びの展開や遊び同士の繋がりがわかるように，コーナー毎に記録をしていく。
- 記録は 1 週間を通して，1 枚のシートに毎日書き足していく。

日付	こどもの姿	記録シート
1 月 18 日 晴れ		
1 月 19 日 晴れ		

<p>1月 20日 晴れ</p>			
<p>1月 21日 晴れ</p>			
<p>1月 22日 雨</p>			

<考察>

1枚のシートを使って毎日の保育を書き足しながら記録していったところ、1週間を通して、遊びがどのように展開していったのか、どの子がどこでどんな遊びをしていたのか、教師がどんな援助をしたのか等がよく見える。また、前日の子どもの姿から、遊びが継続するための環境構成や、翌日の保育のために準備すべき教材や、どんな援助が必要となってくるか等が予想しやすいと感じた。遊びが翌日にも引き継がれ、「明日も続きをやろうね」という声や登園後すぐに前日の遊びの続きに向かっていく姿がみられた。

担任1人の2学級で職員は2人のため、園庭にいると室内での遊びの様子が、室内にいると園庭での遊びの様子が見えにくいこともある。記録シートを共有することで、子どもの姿が可視化され、見えていなかった子どもの姿を共有し、保育を同じ方向性ですすめることができる。

⑤ 実際の保育シート

北幼稚園 保育シート V期 2021年 1月18日～ 1月22日

1/18～1/22

①保育の記録

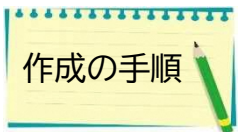
②教師の振り返り

③次週に向けて

期のねらい

④週の計画

今週の予定	25日(月)	26日(火)	28日(木)	29日(金)
<p>① 戸外遊び サッカー、砂場</p> <p>② 室内遊び</p> <p>③ 製作</p> <p>④ 園生活</p>				



①保育の記録
日々の記録を1枚のシートに記録していったものをデータ化して貼り付ける

②教師の振り返り
週の保育を振り返って、気付いたことを記述

③次週に向けて
①②をもとに、次週に向けて考えたことや保育で意識したいことを記述

④週の計画
①②③を受けて次週の計画を作成

<考察>

保育シートにする良さ

- 保育の記録で前週の子どもの姿や遊びの流れが見えることで、今週の保育の見立てがしやすい。
- 2学級なので、それぞれの保育の振り返りを共有することで、お互いが見えていなかった遊びや子どもの姿を知ることができる。
- 次週にむけても、保育者同士で話し合い、園としての保育の方向性を確認して進めることができる。
- 週の計画の中に、期のねらいが入っていることで、長期の育ちを意識することができる。